

STYLISTIC

STYLISTIC Q550/C

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 取り扱い

3 周辺機器

4 セキュリティ

5 ソフトウェア

6 BIOS

7 お手入れ

**8 トラブル
シューーティング**

9 仕様

製品ガイド

目次

本書をお読みになる前に	7
安全にお使いいただくために	7
本書の表記	7
Windowsの操作	9
商標および著作権について	9
第1章 各部名称	
1.1 パソコン本体表面	11
1.2 パソコン本体裏面	12
1.3 キーボード	13
1.4 状態表示LED	15
1.5 タブレットボタン	16
1.6 クレードル	17
第2章 取り扱い	
2.1 タッチパネル	19
2.1.1 注意事項	20
2.1.2 キャリブレーション	21
2.1.3 基本操作	23
2.1.4 文字を入力する	24
2.1.5 タッチパネルの補助機能を使う	25
2.1.6 ペンの機能を設定する	25
2.1.7 ペンの電池を交換する	26
2.1.8 ペン先を交換する	27
2.2 ワイヤレスキーボード	28
2.2.1 注意事項	28
2.2.2 ワイヤレスキーボードを認証させる	28
2.2.3 ワイヤレスキーボードの認証を解除する	29
2.2.4 ワイヤレスキーボードの電池を交換する	29
2.3 ディスプレイ	30
2.3.1 注意事項	30
2.3.2 「Windowsモビリティセンター」で明るさを変更する	30
2.3.3 「電源オプション」で明るさを変更する	30
2.3.4 解像度を変更する	31
2.3.5 拡大表示設定を変更する	31
2.4 マルチディスプレイ機能	32
2.4.1 マルチディスプレイ機能とは	32
2.4.2 注意事項	32
2.4.3 拡張デスクトップ表示に設定する	33

2.4.4 クローン表示に設定する	33
2.4.5 シングル表示に設定する	34
2.4.6 表示方法を切り替える	35
2.5 画面表示の回転	36
2.5.1 注意事項	36
2.5.2 手動で画面表示の向きを変える	36
2.5.3 状態が変わったときの動作を設定する	38
2.6 サウンド	39
2.6.1 全体の再生音量を調節する	39
2.6.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する	39
2.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する	40
2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える	41
2.6.5 既定のオーディオ機器を選択する	41
2.7 省電力機能	42
2.7.1 省電力の状態について	42
2.7.2 省電力状態にする	42
2.7.3 省電力状態からレジュームする	43
2.7.4 電源を切る	44
2.7.5 省電力の設定を変更する	45
2.7.6 省電力モード	46
2.7.7 ECO Sleepの設定を変更する	47
2.8 バッテリ	48
2.8.1 注意事項	48
2.8.2 バッテリを充電する	49
2.8.3 バッテリの残量を確認する	50
2.8.4 バッテリを交換する	51
2.8.5 バッテリの充電モードを変更する	53
2.8.6 バッテリの状態を確認する	54
2.9 通信	55
2.9.1 無線LAN	55
2.9.2 無線WAN	55
2.9.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー	55
2.10 メモリーカードスロット	60
2.10.1 注意事項	60
2.10.2 使用できるメモリーカード	61
2.10.3 メモリーカードをセットする	61
2.10.4 メモリーカードを取り出す	62
2.11 タブレットボタン	63
2.11.1 タブレットボタンを使う	63
2.11.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する	63
2.11.3 アプリケーションランチャーを使う	64

第3章 周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に	66
3.1.1 注意事項	66
3.2 クレードル	67
3.2.1 注意事項	67
3.2.2 クレードルを取り付ける	68
3.2.3 クレードルを取り外す	68
3.3 FOMAカード	69
3.3.1 注意事項	69
3.3.2 FOMAカードを取り付ける	69
3.3.3 FOMAカードを取り外す	70
3.4 コネクタの接続／取り外し	71
3.4.1 注意事項	71
3.4.2 ディスプレイコネクタ	71
3.4.3 USBコネクタ	72
3.4.4 オーディオ端子	73

第4章 セキュリティ

4.1 コンピューターウイルス	75
4.1.1 コンピューターウイルス対策	75
4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする	76
4.2.1 Windows Update	76
4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）	76
4.3 不正使用からのセキュリティ	77
4.3.1 BIOSのパスワード	77
4.3.2 指紋センサー	77
4.3.3 スマートカード	77
4.3.4 セキュリティチップ	78
4.3.5 Portshutter	78
4.3.6 暗号化機能付フラッシュメモリディスク	78
4.3.7 エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	79
4.4 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意	80
4.4.1 パソコンの廃棄・譲渡時の フラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意	80
4.4.2 フラッシュメモリディスクデータ消去	81
4.5 データのバックアップ	83

第5章 ソフトウェア

5.1 ソフトウェアの紹介	85
5.1.1 一覧表の見かた	85
5.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア	86
5.1.3 サポート関連のソフトウェア	86
5.1.4 ユーティリティ	87
5.1.5 メールソフト	88
5.1.6 Office製品	89
5.2 インストール	90
5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール	90
5.2.2 「ノートンアンチウイルス」のインストール	92
5.2.3 「i-フィルター」のインストール	92
5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール	92
5.2.5 Office製品のインストール	92
5.3 アンインストール	93
5.3.1 注意事項	93
5.3.2 アンインストール方法	93

第6章 BIOS

6.1 BIOSセットアップ	95
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた	96
6.2.1 BIOSセットアップを起動する	96
6.2.2 BIOSセットアップ画面	97
6.2.3 BIOSセットアップを終了する	98
6.2.4 起動メニューを使用する	99
6.3 メニュー詳細	100
6.3.1 情報メニュー	100
6.3.2 システムメニュー	101
6.3.3 詳細メニュー	101
6.3.4 セキュリティメニュー	103
6.3.5 起動メニュー	104
6.3.6 終了メニュー／Exitメニュー	104
6.4 設定事例集	105
6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う	105
6.4.2 起動デバイスを変更する	108
6.4.3 セキュリティチップの設定を変更する	109
6.4.4 イベントログを確認する	110
6.4.5 ご購入時の設定に戻す	110

第7章 お手入れ

7.1 日常のお手入れ	112
7.1.1 パソコン本体、キーボードの表面の汚れ	112
7.1.2 液晶ディスプレイ／タッチパネル	112

第8章 トラブルシューティング

8.1 トラブル発生時の基本操作	114
8.1.1 状況を確認する	114
8.1.2 以前の状態に戻す	114
8.1.3 トラブルシューティングで調べる	115
8.1.4 Windowsのヘルプで調べる	115
8.1.5 インターネットで調べる	115
8.1.6 診断プログラムを使用する	115
8.1.7 サポートの窓口に相談する	117
8.2 よくあるトラブルと解決方法	118
8.2.1 トラブル一覧	118
8.2.2 起動・終了時のトラブル	120
8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル	123
8.2.4 ハードウェア関連のトラブル	125
8.2.5 エラーメッセージ一覧	131
8.3 それでも解決できないときは	137
8.3.1 お問い合わせ先	137

第9章 仕様

9.1 本体仕様	140
9.1.1 Q550/C	140
9.2 CPU	143
9.3 ディスプレイ	144
9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度	144
9.3.2 クローン表示の解像度	145
廃棄・リサイクル	146
索引	148

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2011年4月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつなぎで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： 「スタート」ボタンをタップし、「すべてのプログラム」をタップし、「アクセサリ」をタップする操作

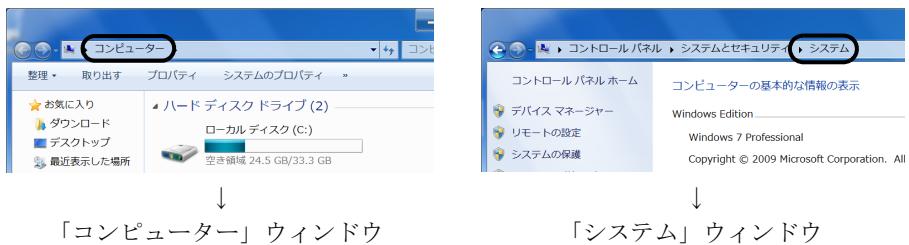
↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にタップします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することができます。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。

あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報を読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記				
STYLISTIC Q550/C	Q550/C	本パソコン／パソコン本体			
Windows® 7 Professional	Windows 7 Professional	Windows 7	Windows		
Windows® 7 Home Premium	Windows 7 Home Premium				
Windows® Internet Explorer® 8	Internet Explorer				
Windows Media® Player 12	Windows Media Player				
Windows Live™ メール Version 2011	Windows Live メール				
Windows Live™ Messenger 2011	Windows Live Messenger				
Adobe® Reader®	Adobe Reader				
Bluetooth®	Bluetooth				
i- フィルター® 6.0	i- フィルター				
ノートン™ アンチウイルス 2011	ノートンアンチウイルス				

Windowsの操作

■ Windowsのヘルプ

本書で説明されていないWindowsの機能については、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」をタップして表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。

また、多くのソフトウェアでは「ヘルプ」をタップしたり【F1】キーを押したりすることでヘルプが表示されます。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザー アカウント制御」 ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の△をタップします。

■ Windowsモビリティセンター

本パソコンのいくつかの機能は、「Windowsモビリティセンター」で操作できます。
「Windowsモビリティセンター」を起動するには、【Win】 + 【X】キーを押すか、画面右下の通知領域にある「電源」アイコンを右タップし、「Windowsモビリティセンター」をタップします。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Live、Internet Explorer、Windows Media、Access、Excel、OneNote、Outlook、PowerPoint、Silverlight、DirectXは、米国Microsoft Corporationおよび/またはその関連会社の商標です。

インテル、Intel、インテルAtomおよびIntel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

Phoenixは、米国Phoenix Technologies社の登録商標です。

Adobe、Readerは、合衆国および/またはその他の国におけるアドビシステムズ社の登録商標または商標です。

Bluetooth®は、Bluetooth SIGの商標であり、弊社へライセンスされています。

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

SDHCロゴは SD-3C, LLC. の商標です。 

「メモリースティック」、「メモリースティックデュオ」、「メモリースティックPRO」、「メモリースティックPROデュオ」、「メモリースティックPRO-HGデュオ」、「メモリースティックマイクロ」、「マジックゲート」および



は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。

の他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

の他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2011

1

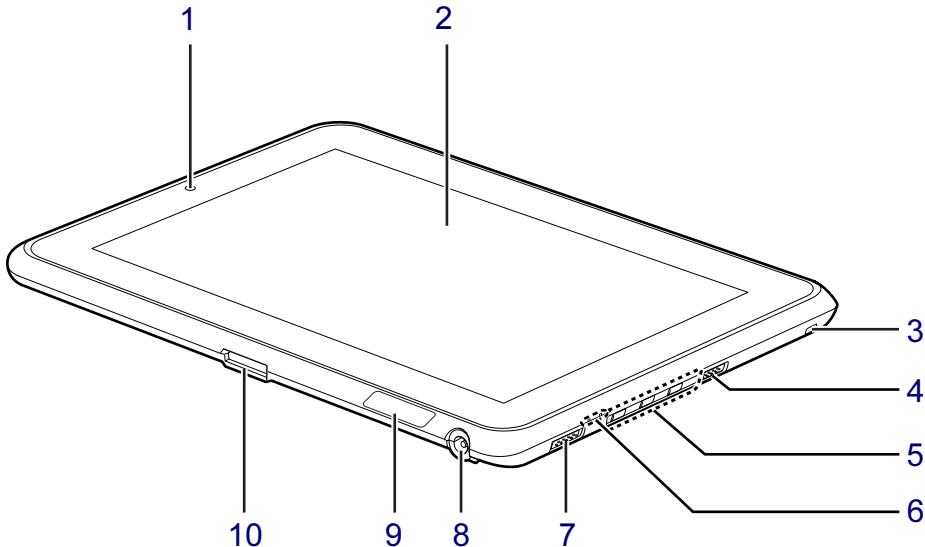
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1	パソコン本体表面	11
1.2	パソコン本体裏面	12
1.3	キーボード	13
1.4	状態表示LED	15
1.5	タブレットボタン	16
1.6	ケーブル	17

1.1 パソコン本体表面



1 Webカメラ

「FujitsuHL」を使って静止画を撮影できます。 (→P.64)

2 液晶ディスプレイ/タッチパネル

(→P.30)

3 ペンひも取り付け用穴

4 ワイヤレススイッチ

無線LAN (→P.55)、無線WAN (→P.55)、Bluetoothワイヤレステクノロジー (→P.55) の通信機能のオン/オフを切り替えます。

5 タブレットボタン

(→P.63)

6 状態表示LED

(→P.15)

7 ⏪ 電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態 (→P.42) にしたりします。

8 ■■■ DC-INコネクタ

添付のACアダプタを接続します。

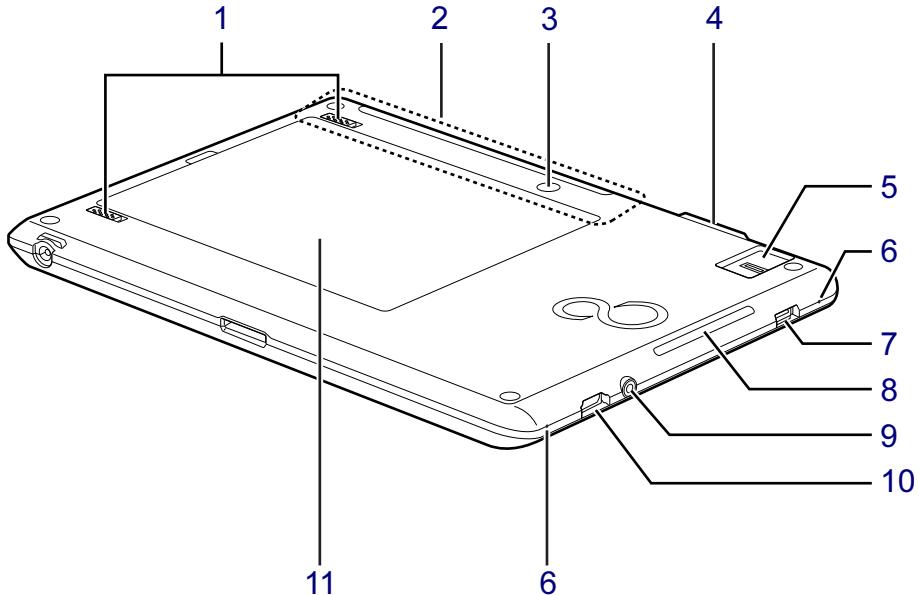
9 スピーカー

(→P.39)

10 クレードル接続コネクタ

(→P.67)

1.2 パソコン本体裏面



1 内蔵バッテリパックロック
(→P.48)

2 ワイヤレスアンテナ
無線LAN (→P.55)、無線WAN (→P.55)、
Bluetoothワイヤレステクノロジー (→P.55)

3 Webカメラ
「FujitsuHL」を使って静止画を撮影できます。 (→P.64)

4 SDメモリーカードスロット
(→P.60)

5 指紋センサー
(→P.77)

6 内蔵マイク
音声を録音できます。

7 USB2.0コネクタ
USB2.0に準拠しています。
(→P.72)

8 スマートカードスロット
(→P.77)

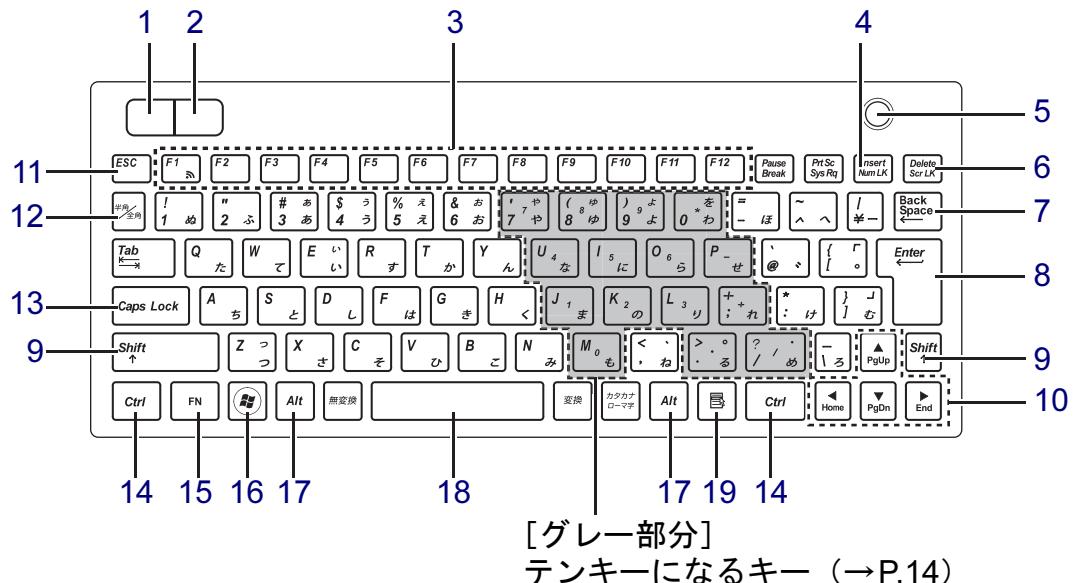
9 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子
(→P.41)

10 デジタルディスプレイコネクタ
(HDMI)
(→P.71)

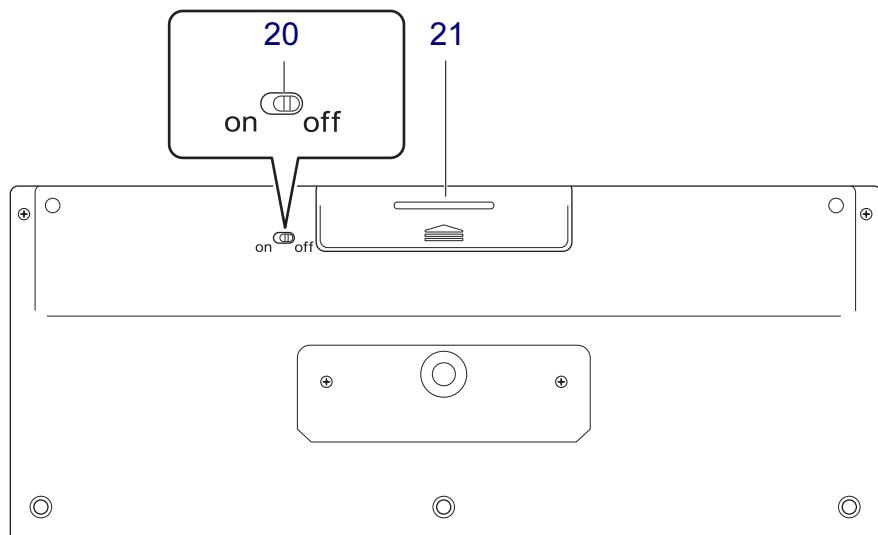
11 内蔵バッテリパック
(→P.48)

1.3 キーボード

■ 表面



■ 裏面



1 左ボタン

マウスの左ボタンに相当します。

2 右ボタン

マウスの右ボタンに相当します。

3 ファンクションキー（【F1】～【F12】）

4 【Insert】キー／【Num Lk】キー

【Insert】キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Num Lk】キー	テンキーモード（→P.14）のオン／オフを切り替える

5 トラックボール

マウスピントーを移動させます。

6 【Delete】キー

7 【Back Space】キー

8 【Enter】キー

9 【Shift】キー

10 カーソルキー

11 【Esc】キー

12 【半角／全角】キー

日本語入力のオン／オフを切り替えます。

13 【Caps Lock】キー

【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

14 【Ctrl】キー

15 【Fn】キー

【Fn】キーを押しながら、青い刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

【Fn】+【F1/】キー	キーボードをパソコンに認識させる（→P.28）
【Fn】+【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Fn】+【Ctrl】+【←/Home】	文章の最初に移動する
【Fn】+【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【Fn】+【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える

16 (Windows)キー

「スタート」メニューを表示します。

17 【Alt】キー

18 【Space】キー

19 (アプリケーション)キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

20 電源スイッチ

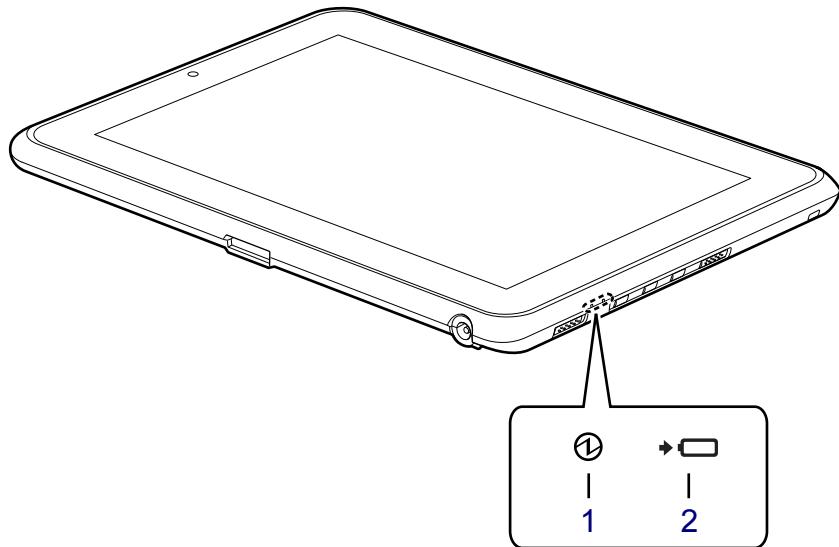
キーボードの電源を操作します。

21 電池ボックス

■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの中央に刻印されています。

1.4 状態表示LED



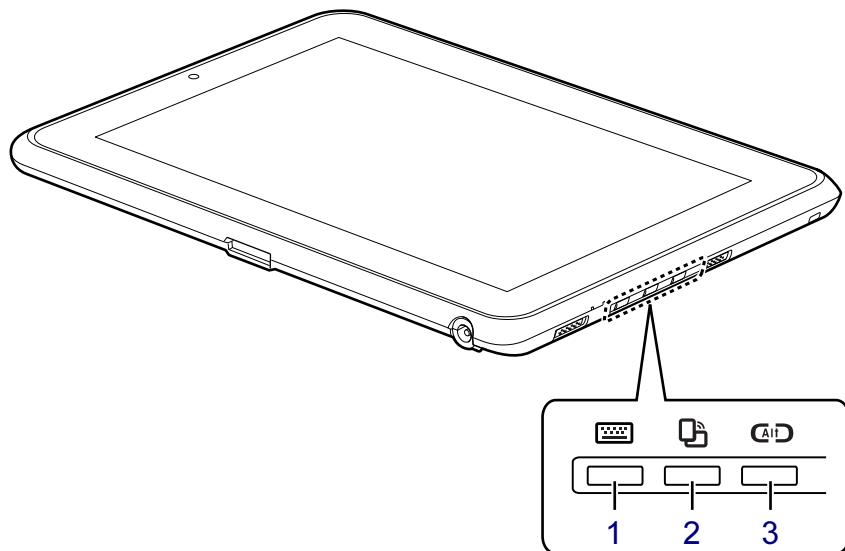
- 1 ① 電源ランプ**
本パソコンの状態を表示します。

- 2 ➔□ バッテリ充電ランプ**
(→P.49)

LEDランプ	本パソコンの状態
青色点灯	動作状態
青色点滅	スリープ状態
消灯	電源オフまたは休止状態

1.5 タブレットボタン

タブレットボタンとしての使用方法については、「2.11 タブレットボタン」(→P.63)をご覧ください。

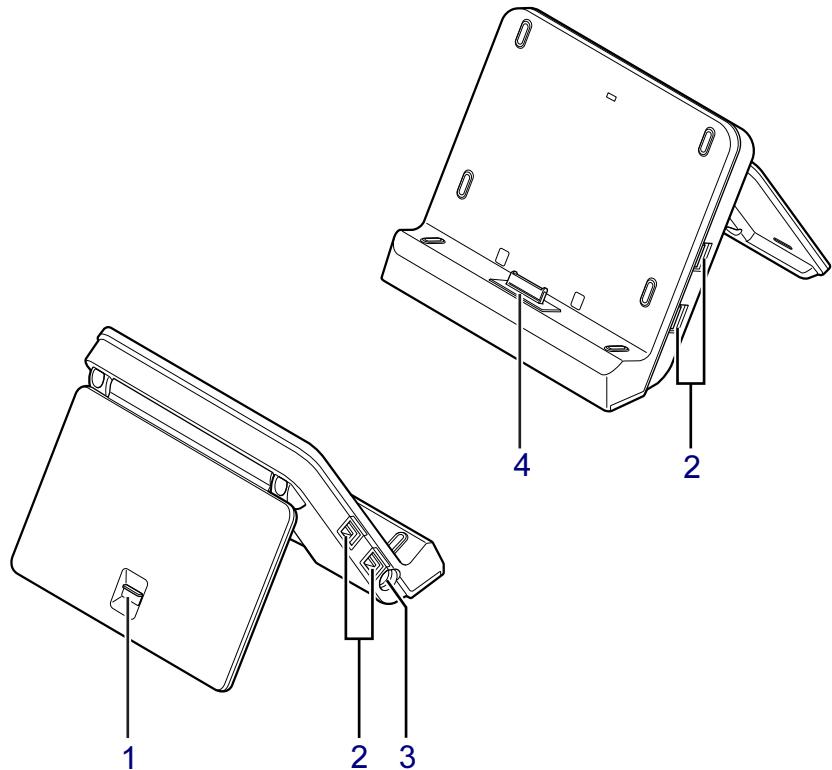


1 キーボードボタン

2 ローテーションボタン

3 Ctrl + Alt + Delete ボタン

1.6 クレードル



1 クレードル開閉ロック

2 **USB2.0コネクタ**

USB2.0に準拠しています。
(→P.72)

3 **DC-INコネクタ**

添付のACアダプタを接続します。

4 本体接続コネクタ

パソコン本体前面にあるクレードル接続コネクタを接続します。(→P.68)

2

第2章

取り扱い

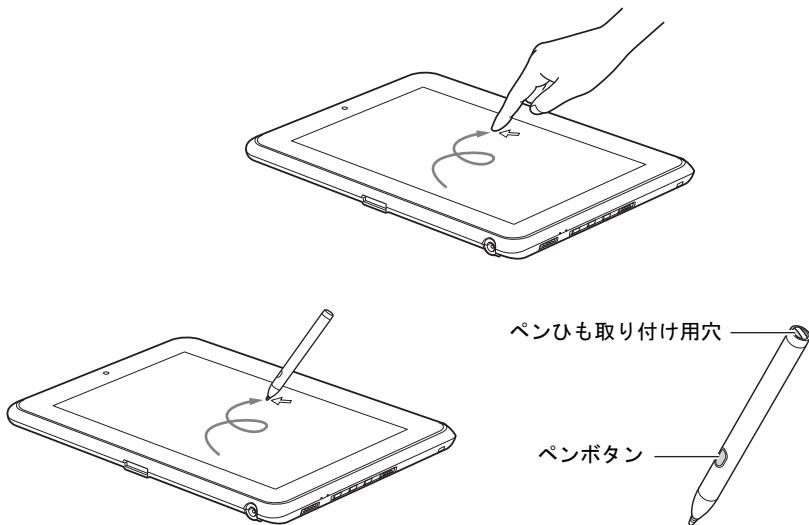
本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 タッチパネル	19
2.2 ワイヤレスキーボード	28
2.3 ディスプレイ	30
2.4 マルチディスプレイ機能	32
2.5 画面表示の回転	36
2.6 サウンド	39
2.7 省電力機能	42
2.8 バッテリ	48
2.9 通信	55
2.10 メモリーカードスロット	60
2.11 タブレットボタン	63

2.1 タッチパネル

本パソコンのタッチパネルは静電容量方式です。指で画面をタッチするだけで、マウスポインターを操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

また、ペン&指入力対応モデルではペン入力（電磁誘導方式）にも対応しています。



POINT

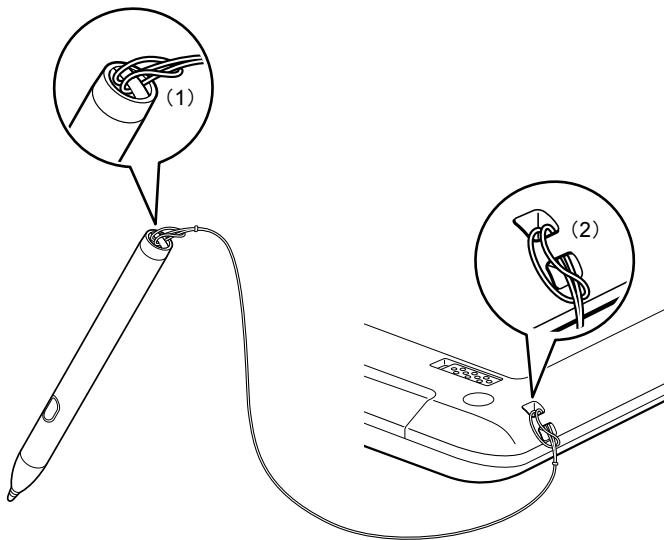
- ▶ 本パソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチして操作することができます。

2.1.1 注意事項

■ ペンによる操作

対象 ペン&指入力対応モデル

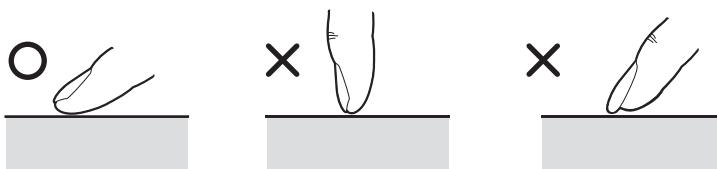
- 力を入れて画面をなぞる必要はありません。画面に近づけて移動させるだけでマウスポインターを操作できます。
- 必ず添付のペンで操作してください。
- ペンの紛失を防ぐために、必ず添付のペンひもでペンとパソコン本体をつないでください。ペンひもは、必ず (1) ペン側 (2) パソコン本体側の順に取り付けてください。



- ペンを破損したり紛失したりしたときは、本パソコンに対応しているペンをご購入ください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

■ 指による操作

- 画面を強く押さないでください。
- ぬれた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。



- 同時にペンで操作したり、ペンを手を持って操作したりしないでください。

2.1.2 キャリブレーション

キャリブレーションとは、入力位置がずれてきたとき、実際のタッチと異なる動作をしたときに調整を行うことです。

次のような場合は、いずれかの調整を行ってください。

- 画面上で実際にタップした位置と、パソコンが「タップされた」と認識する位置がずれる場合（→P.21）
- 実際のタップと異なる動作をする場合、または触れていないのにタップ動作がある場合（「2.1.6 ペンの機能を設定する」（→P.25））

タッチパネルを使い始める前には、キャリブレーションを実施してください。

また、使用環境が変わった場合には、再度キャリブレーションを行うことをお勧めいたします。

POINT

- ▶ キャリブレーションを行うときに、調整ポイントが言語バーの下に隠れる場合があります。言語バーを最小化しておくことをお勧めします。

■ ペンによるキャリブレーション

対象 ペン&指入力対応モデル

POINT

- ▶ 初めてキャリブレーションを行うときは、あらかじめ画面表示の向きを0°にしておいてください（→P.36）。

1 コントロールパネルの「Tablet PC設定」を開きます。

「ハードウェアとサウンド」→「Tablet PC設定」

2 「画面」タブの「調整」をタップします。

3 「ペン入力」をタップします。

4 画面の「+」マークの交点を正確にペンでタップします。

「+」マークが次の調整ポイントに移動します。

5 同様に「+」マークを順番にタップします。

合計16ヶ所をタップします。2回目以降は4ヶ所をタップします。

6 「はい」をタップします。

■ 指によるキャリブレーション

POINT

- ▶ 初めてキャリブレーションを行うときは、あらかじめ画面表示の向きを0°にしておいてください（→P.36）。

- 1 コントロールパネルの「Tablet PC設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「Tablet PC設定」
 - 2 「画面」タブの「調整」をタップします。
 - 3 ペン&指入力対応モデルの場合は、「タッチ入力」をタップします。
 - 4 画面の「+」マークの交点を正確に指でタップします。
「+」マークが次の調整ポイントに移動します。
-
- ### POINT
- ▶ 指の皮膚の部分でタップしてください。つめや手袋をした指での操作はできません。
- 5 同様に「+」マークを順番にタップします。
合計16ヶ所をタップします。2回目以降は4ヶ所をタップします。
 - 6 「はい」をタップします。

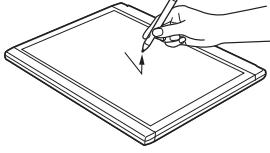
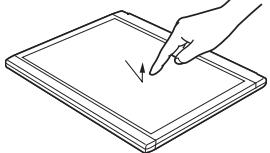
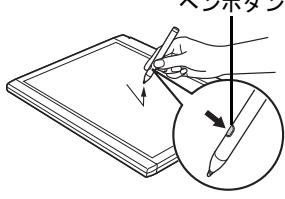
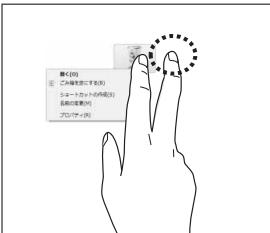
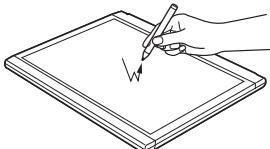
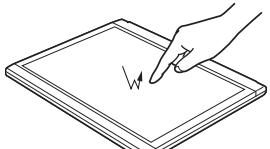
2.1.3 基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、ペン（ペン&指入力対応モデルのみ）または指で操作します。

マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

POINT

- ▶ 本パソコンに搭載されている「ゆったり設定mini」（→P.87）で、スクロールバーやタイルバーなどを大きくすると指での操作がしやすくなります。
ご購入時は指での操作に適した大きさに設定されています。「ゆったり設定mini」を起動するには、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ゆったり設定mini」→「ゆったり設定mini」の順にタップします。

機能	ペンの操作	指の操作
タップ	画面を1回押して離します。 	画面を1回軽くたたきます。 
右タップ	ペンボタンを押しながら画面を押し て離します。  画面を長押ししてから離しても、右 タップになります。	1本の指で画面を押しながら、もう1 本の指で画面の別の場所を1回軽くた たきます。  画面を押し、画面に円が表示されて から指を離しても、右タップにな ります。
ダブル タップ	画面を素早く2回連続で押して離しま す。 	画面を素早く2回連続して軽くたたき ます。 

機能	ペンの操作	指の操作
ポイント	画面に近づけるか軽く触れます。	画面に軽く触れます。
ドラッグ	画面に軽く押しつけながらなぞります。	画面に軽く押しつけながらなぞります。

2.1.4 文字を入力する

別売のワイヤレスキーボードを使わずに文字を入力するには、「タッチ文字入力」または「Tablet PC入力パネル」を使用します。

■ 注意事項

- Windowsにログオンしていない状態では「タッチ文字入力」や「Tablet PC入力パネル」は使用できません。

■ 「タッチ文字入力」を使う

本パソコンに搭載されている「タッチ文字入力」は、画面に表示された文字をタッチしたり、入力したい文字を画面に手書きしたりして文字を入力するソフトウェアです。予測入力機能により、効率よく文字を入力できます。

「タッチ文字入力」を表示するには、テキスト入力領域をタップして表示される「タッチ文字入力」アイコン  をタップするか、パソコン本体のキーボードボタン（→P.16）を押します。

「タッチ文字入力」の詳しい使い方は、「タッチ文字入力」ウィンドウ右上の「ヘルプ」をタップして表示されるヘルプをご覧ください。

■ 「Tablet PC入力パネル」を使う

「Tablet PC入力パネル」では、手書きパッドおよびタッチキーボードによる文字の入力ができます。

「Tablet PC入力パネル」を表示するには、テキスト入力領域をタップして表示される「入力パネル」アイコンをタップするか、画面の左端に表示された「入力パネル」タブをタップします。

「Tablet PC入力パネル」の詳しい使い方は、「ツール」メニュー→「トピックの検索」の順にタップして表示されるヘルプをご覧ください。

2.1.5 タッチパネルの補助機能を使う

本パソコンに搭載されている「OnScreen Touchpad」は、タッチパネルの一部をマウスやテンキーのように使ったり、あらかじめ登録しておいたソフトウェアやフォルダーをタップするだけで開いたりできるソフトウェアです。

「OnScreen Touchpad」を起動するには、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「OnScreen Touchpad」→「OnScreenTouchpad」の順にタップします。

「OnScreen Touchpad」の詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「OnScreen Touchpad」→「使い方」の順にタップして表示されるマニュアルをご覧ください。

2.1.6 ペンの機能を設定する

対象 ペン&指入力対応モデル

ここでは、ご使用になる環境に合わせたタッチパネルの設定や、ペンとタッチの機能の設定変更を行ないます。

1 コントロールパネルの「N-trig DuoSenseTM Digitizerの設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「N-trig DuoSenseTM Digitizerの設定」

2 それぞれのタブで、設定を変更します。

●「(Digitizer) デジタイザオプション」タブ

入力モード：タッチパネルの入力を設定します。

- ・ペンのみ : 「ペンのみ」はペン入力専用にします。
- ・タッチのみ : 「タッチのみ」タッチ入力専用にします。
- ・自動モード : ペン入力又はタッチ入力を簡単に切り替えることができます。
- ・デュアルモード : ペン入力、タッチ入力の両方を可能にします。

タッチの調整：ご使用になる環境にあわせて、タッチ入力を最適な状態に補正します。

☞ 重要

- ▶ タッチの調整を行う場合は、ACアダプターを接続した状態で実施してください。
- ▶ タッチの調整中は、タッチパネルに触れないでください。

●「ペン」タブ

ペンボタン：ペン側面のボタンの設定を行います。

2.1.7 ペンの電池を交換する

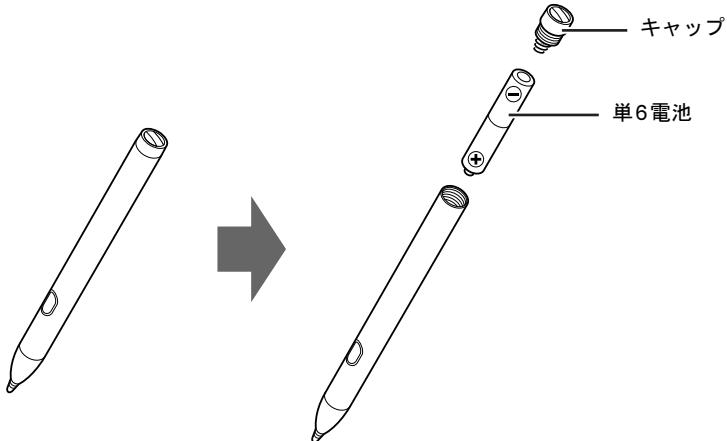
対象 ペン&指入力対応モデル

ペン入力が正常に行えなくなった場合は、電池の寿命が考えられます。次の手順で新しい電池と交換してください。

POINT

- ▶ 次の手順でペンの電池の状態を確認することもできます。
 1. コントロールパネルの「N-trig DuoSense™ Digitizerの設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「N-trig DuoSense™ Digitizerの設定」
 2. 「ペン」タブをタップします。
 3. ウィンドウの任意の場所をペンで長押しします。
ペンの電池の状態が表示されます。

1 ペン本体のキャップを外し、電池を取り出します。



2 電池のプラス（+）とマイナス（-）の向きを確認し、新しい単6電池を取り付けます。

3 ペン本体にキャップを取り付けます。

※重要

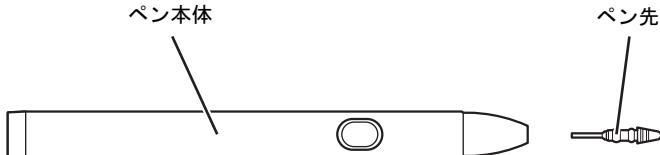
- ▶ ご購入時に添付されている電池は、初期動作確認用です。すぐに寿命に達することがあるため、早めに新しい電池に交換してください。

2.1.8 ペン先を交換する

対象 ペン＆指入力対応モデル

ペン先が破損したり、滑りが悪くなったりしたときは、次の手順に従って添付の新しいペン先と交換してください。

- 1 ペン先を指でつかみ、ペン本体から外れるまでまっすぐ引き抜きます。



- 2 新しいペン先をペン本体に差し込みます。

ペン先の向きを確かめて、ペン本体の穴にまっすぐ差し込みます。

2.2 ワイヤレスキーボード

対象 ワイヤレスキーボード（別売）使用時

ここでは別売のワイヤレスキーボードを使うための操作について説明しています。
各キーの役割については「1.3 キーボード」（→P.13）をご覧ください。

2.2.1 注意事項

- ワイヤレスキーボードは、Windowsが起動している場合にのみ使用できます。
- ワイヤレスキーボードを使うためには、ワイヤレスキーボードをパソコン本体に認証させる必要があります（→P.28）。

2.2.2 ワイヤレスキーボードを認証させる

初めてワイヤレスキーボードを使うときは、次の手順でワイヤレスキーボードをパソコン本体に認証（ペアリング）させる必要があります。

POINT

- ▶ 一度ワイヤレスキーボードを認証させると、その後はワイヤレスキーボードの電源を入れるだけで使用できるようになります。

- 1 コントロールパネルの「デバイスの追加」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」の「デバイスの追加」
- 2 ワイヤレスキーボードの電源を入れます。
- 3 ステータスランプが点灯していない場合は、ワイヤレスキーボードの【Fn】+【F1】キーを押してステータスランプを点灯させます。
しばらくすると「デバイスの追加」ウィンドウに「Bluetooth Keyboard」が表示されます。
- 4 「Bluetooth Keyboard」をタップし、「次へ」をタップします。
しばらくするとペアリングコードが表示されます。
- 5 30秒以内にワイヤレスキーボードでペアリングコードを入力し、【Enter】キーを押します。

重要

- ▶ 入力したキーは画面には表示されません。ペアリングコードを間違えたり、30秒以内にペアリングコードを入力しなかった場合は、「このデバイスをこのコンピューターに追加できませんでした」と表示されます。「再実行」をタップしてやり直してください。

- 6** 「このデバイスは、このコンピューターに正常に追加されました」と表示されたら、「閉じる」をタップします。

 **POINT**

- ▶ ドライバーのインストールが完了し、ワイヤレスキーボードが使用可能になるまでしばらく時間がかかる場合があります。

2.2.3 ワイヤレスキーボードの認証を解除する

ワイヤレスキーボードの認証を解除するには、次の操作を行います。

- 1** 「デバイスとプリンター」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」の「デバイスとプリンターの表示」
- 2** 「Bluetooth Keyboard」を右タップし、「デバイスの削除」をタップします。
- 3** 「はい」をタップします。

2.2.4 ワイヤレスキーボードの電池を交換する

ワイヤレスキーボードのステータスランプが点滅している場合は電池の寿命です。次の手順で新しい電池と交換してください。

- 1** ワイヤレスキーボードを静かに裏返します。
- 2** ワイヤレスキーボードの電源を切ります。
- 3** 電池カバーの刻印部分を押しながらスライドさせ、電池カバーを取り外します。
- 4** 電池のプラス（+）とマイナス（-）の向きを確認し、新しい単4電池を取り付けます。
- 5** 電池カバーを「カチッ」と音がするまでスライドさせ、電池カバーを取り付けます。

2.3 ディスプレイ

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。
2つのディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.4
マルチディスプレイ機能」(→P.32) をご覧ください。

2.3.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがあります、故障ではありません。

2.3.2 「Windowsモビリティセンター」で明るさを変更する

本パソコンの液晶ディスプレイの明るさは、「Windowsモビリティセンター」(→P.9) で変更できます。

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「2.3.3
「電源オプション」で明るさを変更する」(→P.30) をご覧ください。

POINT

- ▶ 「FujitsuHL」(→P.64) が起動中のときは、画面右上のアイコン  で変更できます。

2.3.3 「電源オプション」で明るさを変更する

現在選択されていない電源プランや、現在と異なる電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）の明るさの設定は、「電源オプション」で変更できます。

- 1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
- 2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。
- 3 明るさを変更し、「変更の保存」をタップします。

2.3.4 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、発色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 デスクトップで右タップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 2 ウィンドウ左の「ディスプレイ設定」をタップします。
- 3 「画面の解像度」、「画面の色」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」(→P.144)をご覧ください。
- 4 「適用」をタップします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

☞ 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.3.5 拡大表示設定を変更する

ディスプレイのサイズより小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

- 1 デスクトップで右タップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 2 ウィンドウ左の「ディスプレイ設定」をタップします。
- 3 「縦横比のオプション」をタップし、拡大表示設定を選択します。
 - ・縦横比を保持
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
 - ・全画面表示（枠なし）
画面がディスプレイ全体に拡大されます。
- 4 「OK」をタップします。

2.4 マルチディスプレイ機能

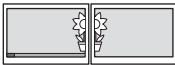
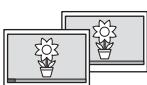
本パソコンに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。

ここでは2つのディスプレイを使ったマルチディスプレイ機能について説明しています。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.4.2 ディスプレイコネクタ」(→P.71) をご覧ください。

2.4.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、2つのディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	パソコン本体の液晶ディスプレイの画面を外部ディスプレイに拡張し、1つの画面として表示します。Windowsのタスクバーは1つのディスプレイにのみ表示され、このディスプレイをプライマリディスプレイと呼び、もう1つのディスプレイをセカンダリディスプレイと呼びます。それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	2つのディスプレイに同一の画面を表示します。両方のディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	2つのディスプレイのどちらか一方に画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

画面表示の設定を「Fujitsu Display Manager」のプロファイルに保存したり、呼び出したりするには、「2.4.6 表示方法を切り替える」(→P.35) をご覧ください。

2.4.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがあります、故障ではありません。

2.4.3 拡張デスクトップ表示に設定する

- 1 デスクトップで右タップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 2 ウィンドウ左の「ディスプレイデバイス」をタップします。
- 3 「マルチディスプレイ」から「拡張デスクトップ」を選択します。
このとき、「プライマリデバイス」には、「ノートブック」を設定してください。
- 4 表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。
「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。
- 5 必要に応じてウィンドウ左の「ディスプレイ設定」をタップし、それぞれのディスプレイの「画面の解像度」、「画面の色」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」(→P.144)をご覧ください。設定する解像度が表示されない場合は次の手順に進み、画面表示の設定を変更してからあらためて解像度を設定してください。

◀ 重要

- ▶ 発色数は両方のディスプレイで同じ値を設定してください。

- 6 「適用」をタップします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

◀ 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.4 クローン表示に設定する

- 1 デスクトップで右タップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 2 ウィンドウ左の「ディスプレイデバイス」をタップします。
- 3 「マルチディスプレイ」から「インテル(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」を選択します。

- 4** 必要に応じてウィンドウ左の「ディスプレイ設定」をタップし、「プライマリディスプレイの「画面の解像度」、「画面の色」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定します。

設定可能な値は、「9.3.2 クローン表示の解像度」(→P.145) をご覧ください。

- 5** 「適用」をタップします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.5 シングル表示に設定する

- 1** デスクトップで右タップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。

「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。

- 2** ウィンドウ左の「ディスプレイデバイス」をタップします。

- 3** 「シングルディスプレイ」から画面を表示するディスプレイを選択します。

- 4** 必要に応じてウィンドウ左の「ディスプレイ設定」をタップし、「画面の解像度」、「画面の色」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定します。

設定可能な値は、「9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」(→P.144) をご覧ください。設定する解像度が表示されない場合は次の手順に進み、画面表示の設定を変更してからあらためて解像度を設定してください。

- 5** 「適用」をタップします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.6 表示方法を切り替える

「Fujitsu Display Manager」に画面表示の設定をプロファイルとして登録しておくと、必要なときに登録した画面表示の設定を呼び出すことができます。

「Fujitsu Display Manager」の詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「ヘルプ」の順にタップして表示されるヘルプをご覧ください。

POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードをお使いの場合、【Win】+【P】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示することもできます。

■ 画面表示の設定を登録する

画面表示の設定を「Fujitsu Display Manager」に登録するには、次の操作を行います。

- 1 あらかじめ登録したい画面表示を設定しておきます。
 - ・拡張デスクトップ表示の場合：「2.4.3 拡張デスクトップ表示に設定する」（→P.33）
 - ・クローン表示の場合：「2.4.4 クローン表示に設定する」（→P.33）
 - ・シングル表示の場合：「2.4.5 シングル表示に設定する」（→P.34）
 - ・1台のディスプレイの場合：「2.3.4 解像度を変更する」（→P.31）
- 2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にタップします。
- 3 「現在の画面表示設定をプロファイルに追加」をタップします。
- 4 プロファイル名を入力し、「OK」をタップします。
プロファイルが登録されます。

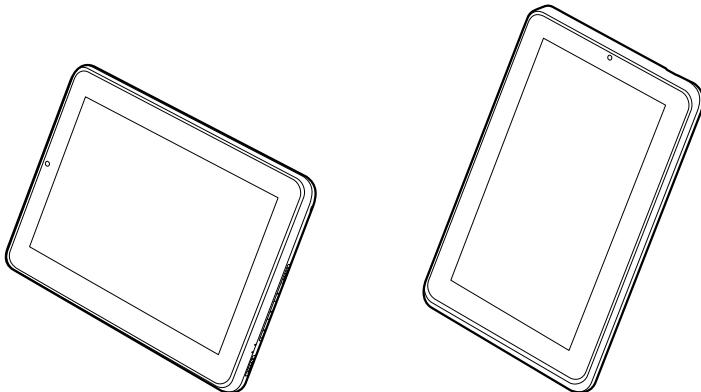
■ 登録した画面表示の設定を呼び出す

「Fujitsu Display Manager」に登録した画面表示の設定は、次の手順で呼び出します。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にタップします。
- 2 呼び出すプロファイルを選択し、「OK」をタップします。

2.5 画面表示の回転

本パソコンは横向きでも縦向きでも操作できます。画面表示の向きは手動で変更したり（→P.36）、パソコン本体の向きを変えたときに自動的に変更するように設定できます（→P.38）。



2.5.1 注意事項

- 画面表示の向きの設定は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。

2.5.2 手動で画面表示の向きを変える

パソコン本体の向きにかかわらず手動で画面表示の向きを変更できます。

画面表示の向き	0°		90°		180°		270°	
---------	----	--	-----	--	------	--	------	--

■ ローテーションボタンで画面表示の向きを変更する

ローテーションボタン（→P.16）を押すたびに、あらかじめ設定した順番で画面表示の向きが切り替わります。

□ ローテーションボタンの設定を変更する

ローテーションボタンの設定を変更するには、次の操作を行います。

1 コントロールパネルの「Tablet PC設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「Tablet PC設定」

2 「画面」タブで「設定画面を表示」をタップします。

- 3 「1」～「4」に、それぞれの順番での画面表示の向きを設定し、「OK」をタップします。**

選択できる項目と画面表示の向きは次のとおりです。設定したくない順番には「(なし)」を設定します。

項目	横（プライマリ）	縦（セカンダリ）	横（セカンダリ）	縦（プライマリ）
画面表示の向き	0° 	90° 	180° 	270° 

- 4 「OK」をタップします。**

■ ホットキーで画面表示の向きを変更する

ワイヤレスキーボードをお使いの場合、ホットキーを押して画面表示の向きを直接変更できます。

ご購入時の設定では、カーソルキーの向きが画面表示の上の向きになります。

ホットキー	【Ctrl】+【Alt】+【↑】	【Ctrl】+【Alt】+【←】	【Ctrl】+【Alt】+【↓】	【Ctrl】+【Alt】+【→】
画面表示の向き	0° 	90° 	180° 	270° 

□ ホットキーの設定を変更する

ホットキーの設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1 デスクトップで右タップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 2 ウィンドウ左の「ホットキー」をタップします。
- 3 ホットキーの設定を変更し、「OK」をタップします。

2.5.3 状態が変わったときの動作を設定する

■「Auto Rotation Utility」の設定を変更する

パソコン本体を傾けたときに、傾けた向きに応じて自動的に画面表示の向きが変更されるようになるには「Auto Rotation Utility」を使用します。

ご購入時の設定では「Auto Rotation Utility」は無効（一時停止）に設定されています。「Auto Rotation Utility」の有効と無効を切り替えるには、ローテーションボタンを2秒以上押します。

POINT

- ▶ 画面右下の通知領域にある「Auto Rotation Utility」アイコンを右タップし、動作を選択することによっても切り替えることができます。
- ▶ 「Auto Rotation Utility」の詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Auto Rotation Utility」→「ヘルプ」の順にタップして表示されるヘルプをご覧ください。

□ 自動一時停止機能について

自動一時停止機能とは、手動で画面表示の向きを変えたときに「Auto Rotation Utility」の機能を一時停止（自動一時停止状態）にする機能です。これにより、「Auto Rotation Utility」を使用中でも一時的に画面表示の向きを固定できます。

自動一時停止状態は、現在の画面表示の向きとパソコン本体の傾きが一致すると自動的に解除されます。

2.6 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子（ヘッドホン・ラインアウト兼用端子）の機能の切り替え方法などについて説明しています。

オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.4.4 オーディオ端子」（→ P.73）をご覧ください。

2.6.1 全体の再生音量を調節する

パソコン本体のスピーカーや、本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン  をタップします。
- 2 音量を調節します。

POINT

- ▶ 「FujitsuHL」（→P.64）が起動中のときは、画面右上のアイコン  で調節します。

2.6.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

- 1 音量を調節するソフトウェアを起動します。
- 2 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン  を右タップし、「音量ミキサーを開く」をタップします。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」(→P.40)、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」(→P.40)をご覧ください。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。**
「3.4.4 オーディオ端子」(→P.73)
- 2 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン  を右タップし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。**
- 3 音量を調節したい機器を右タップし、「プロパティ」をタップします。**
- 4 「レベル」タブをタップします。**
- 5 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をタップします。**

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Realtek HD Audio output	パソコン本体のスピーカーや本パソコンに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
	マイク	パソコン本体のマイクから入力される音の再生音量
	Line Out	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子から出力される音の再生音量（ライン出力設定時）
[ディスプレイ名] ^{注1}	インテル(R) ディスプレイ用 オーディオ HDMI 1	デジタルディスプレイコネクタ (HDMI) に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量

注1：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	マイク	マイクから入力される音の録音音量
	マイクブースト	マイクブーストのレベル

2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（ヘッドホン・ラインアウト兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

- 1 オーディオ端子に機器を接続します（→P.73）。
- 2 画面右下の通知領域にある「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン  をダブルタップします。
「Realtek HD オーディオマネージャ」 ウィンドウが表示されます。
- 3 ウィンドウ右にあるオーディオ端子のアイコンをダブルタップします。
機能を選択するウィンドウが表示されます。
- 4 機能を選択し、「OK」をタップします。

POINT

- ▶ 「オーディオ機器を接続したときに、自動的にこのウィンドウを表示します。」にチェックを付けると、機器を接続したときに機能を選択するウィンドウを表示させることができます。

2.6.5 既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数利用可能な場合、既定の機器を選択できます。

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン  を右タップし、「録音デバイス」または「再生デバイス」をタップします。
「サウンド」 ウィンドウが表示されます。
- 2 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をタップします。
- 3 「OK」をタップします。

2.7 省電力機能

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明しています。
本パソコンの消費電力については、「9.1 本体仕様」(→P.140) をご覧ください。

2.7.1 省電力の状態について

本パソコンの省電力の状態は次のとおりです。

POINT

- ▶ ECO Sleepにより、電源オフ状態や休止状態でバッテリの充電が完了している場合のACアダプタの消費電力を抑えることができます。
詳しくは「2.7.7 ECO Sleepの設定を変更する」(→P.47) をご覧ください。

■ スリープ状態

Windowsの省電力状態の1つで、Windowsの状態をメモリに保存し、Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。

この状態では、メモリに保存したWindowsの状態などを維持するために、少しずつ電力を消費します。

■ 休止状態

Windowsの省電力状態の1つで、Windowsの状態をファイルとして保存し、Windowsの動作を一時的に中断させて電源を切った状態です。

■ 省電力モード

本パソコンに搭載されている「省電力ユーティリティ」の機能により、本パソコンを使用できる状態にしたまま一部の機能を制限し、電力の消費を抑えた状態です。詳しくは、「2.7.6 省電力モード」(→P.46) をご覧ください。

2.7.2 省電力状態にする

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。

■ 省電力状態にする

省電力状態にするには次の方法があります。動作はご購入時の設定です。

操作／条件	動作
電源スイッチをスライドさせる ^{注1}	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.45)
「スタート」メニューから選択する	選択した動作になります。
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.45)
バッテリ残量が少なくなる	休止状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.45)

注1：電源スイッチは4秒以上スライドさせないでください。電源スイッチを4秒以上スライドさせると、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。

2.7.3 省電力状態からレジュームする

■ 注意事項

- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようしてください。
- 電源スイッチをスライドさせる以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードやタッチパネルなどから入力をを行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本パソコンは再度スリープ状態になります。

■ レジュームする

省電力状態からレジュームするには次の方法があります。動作はご購入時の設定です。

操作／条件	動作
電源スイッチをスライドさせる	レジュームします。
USB キーボードや USB マウスを操作する ^{注2}	無効に設定されています。 「■ USB デバイスによるレジュームの設定を変更する」(→ P.45)

注：休止状態からはレジュームしません。

2.7.4 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次の方法で、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切れます。

1. 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にタップします。
しばらくするとWindowsが終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます。

POINT

- ▶ 「スタート」ボタン→[シャットダウン] の ▶ →「再起動」の順にタップすると、パソコン本体を再起動できます。

2.7.5 省電力の設定を変更する

■ 電源プランを切り替える

電源設定は電源プランごとに設定されています。お使いになる状況に応じて電源プランを切り替えることができます。

- 1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

- 2 お使いになる電源プランをタップします。

POINT

- ▶ 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をタップし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

- 1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

- 2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。

- 3 「詳細な電源設定の変更」をタップします。

- 4 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

- 5 「OK」をタップします。

■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する

USBキーボードやUSBマウスを操作してスリープ状態からレジュームする設定は、次の手順で変更します。

- 1 「Windowsモビリティセンター」(→P.9) を起動します。

- 2 「スリープ状態からの復帰」に表示されている現在の設定を確認し、必要に応じて「切り替える」をタップします。

2.7.6 省電力モード

省電力モードとは、本パソコンに搭載されている「省電力ユーティリティ」の機能により、本パソコンを使用できる状態にしたまま一部の機能を制限し、電力の消費を抑えた状態のことです。

省電力モード／通常モードでは、画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンがそれぞれ / と表示されます。

■ 省電力モードと通常モードを切り替える

重要

- ▶ 通常モードから省電力モードへの切り替えは、省電力モードで制限される機能の使用を中止してから行ってください。

省電力モードと通常モードは、「省電力ユーティリティ」で切り替えます。

- 1 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコン / を右タップし、「モードの切り替え」をタップします。

POINT

- ▶ 「Windows モビリティセンター」(→P.9) で切り替えることもできます。

■ 省電力モードの設定を変更する

- 1 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコン / を右タップし、「省電力モードの設定」をタップします。
- 2 それぞれの項目で、「省電力モード時の動作」を選択し、「OK」をタップします。

POINT

- ▶ 省電力ユーティリティの詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「省電力ユーティリティ」→「ヘルプ」の順にタップして表示されるヘルプをご覧ください。

2.7.7 ECO Sleepの設定を変更する

ECO Sleepとは、電源オフ状態や休止状態でバッテリの充電が完了している場合に、ACアダプタからの電力供給を止めることにより消費電力を抑える機能です。

ECO Sleepの設定は「バッテリーユーティリティ」で変更します。

- 1** 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「ECO Sleep」の順にタップします。
- 2** 「変更」をタップします。
- 3** ECO Sleepを有効にする場合は「低待機モード」を、ECO Sleepを無効にする場合は「通常モード」をタップし、「OK」をタップします。

2.8 バッテリ

ここでは、バッテリを使用して本パソコンを使用する方法や注意事項について説明しています。

バッテリの充電時間や駆動時間など、バッテリの仕様については「9.1 本体仕様」(→P.140)をご覧ください。

2.8.1 注意事項

■ バッテリの取り扱い

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。
- バッテリを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり強い衝撃を与えたりしたバッテリは使用しないでください。
- バッテリやパソコン本体のバッテリコネクタには触れないでください。
- バッテリは分解しないでください。
- 長期間（約1ヶ月以上）本パソコンを使用しない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。
- 高温環境に放置しないでください。バッテリが劣化します。

■ バッテリで運用するとき

- 本パソコンの使用中にバッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われことがあります。バッテリの残量に注意してお使いください。バッテリの残量を確認するには、「2.8.3 バッテリの残量を確認する」(→P.50)をご覧ください。
- 本パソコンの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本パソコンを省電力モードにすることにより、バッテリ駆動時間を長くすることができます。詳しくは、「2.7.6 省電力モード」(→P.46)をご覧ください。
- バッテリは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリ駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力が低下します。

■ 寿命について

- バッテリは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリ駆動時間が短くなります。バッテリの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリの寿命です。「2.8.4 バッテリを交換する」(→P.51)をご覧になり、新しいバッテリと交換してください。
- 寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。感電や火災の原因となります。
- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「2.8.5 バッテリの充電モードを変更する」(→P.53)をご覧ください。

2.8.2 バッテリを充電する

1 パソコン本体にACアダプタを接続します。

充電が始まります。バッテリの充電状態は、バッテリ充電ランプ (→P.15) で確認できます。

POINT

- ▶ バッテリを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
 - ・充電モードが「フル充電モード」で、バッテリの残量が90%以上の場合
 - ・充電モードが「80%充電モード」で、バッテリの残量が70%以上の場合
- バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

バッテリ充電ランプ	バッテリの充電状態
オレンジ色 ^{注1}	充電中
緑色	<ul style="list-style-type: none">・充電完了^{注2}・内蔵バッテリパックが取り付けられていない
消灯	ACアダプタが接続されていない

注1：点滅している場合は、バッテリの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。

注2：ECO Sleep (→P.47) が動作中の場合、電源オフ状態や休止状態では点灯しません。

2.8.3 バッテリの残量を確認する

バッテリの残量は、画面右下の通知領域にある「電源」アイコンで確認できます。

なお、表示されるバッテリの残量は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。

POINT

- ▶ より詳しいバッテリの状態は「バッテリーユーティリティ」で確認できます。詳しくは、「2.8.6 バッテリの状態を確認する」(→P.54) をご覧ください。

■「バッテリが不足しています」というメッセージが表示されたら

バッテリの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 充電済みのバッテリに交換する
「2.8.4 バッテリを交換する」(→P.51)
- 本パソコンを休止状態にする
「2.7.2 省電力状態にする」(→P.42)
- 作業を終了して本パソコンの電源を切る
「2.7.4 電源を切る」(→P.44)

ご購入時は、バッテリの残量が約10%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.45) をご覧ください。

2.8.4 バッテリを交換する

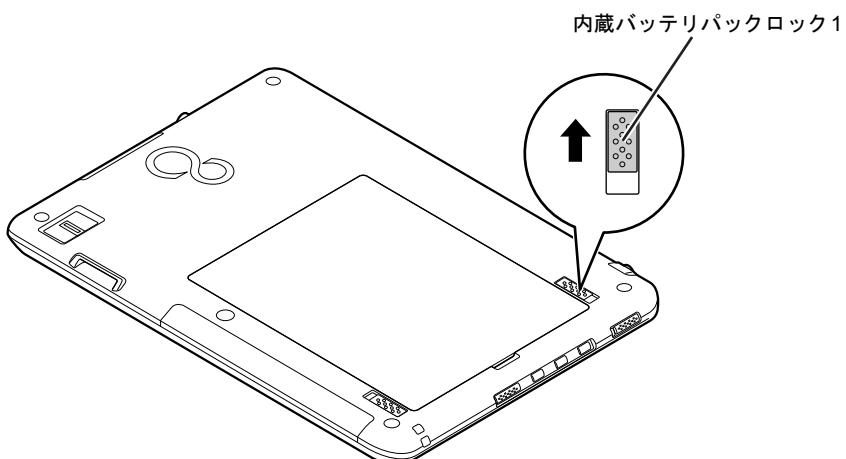
ここでは内蔵バッテリパックの交換方法について説明します。

交換したバッテリの処分については、「廃棄・リサイクル」(→P.146)をご覧ください。

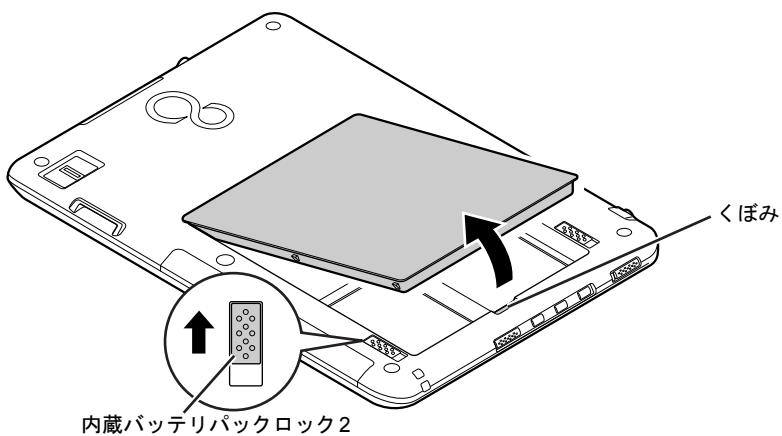
1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

2 パソコン本体を静かに裏返します。

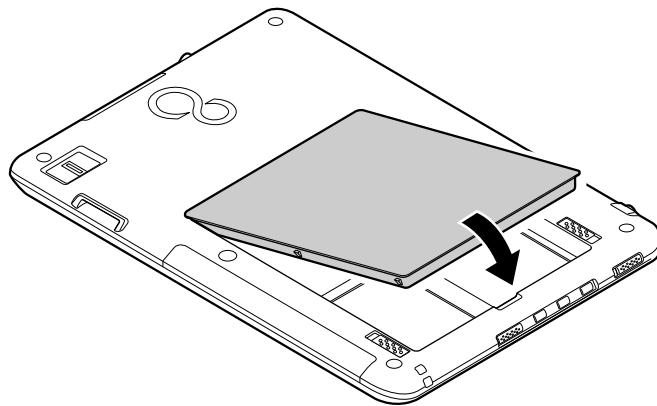
3 内蔵バッテリパックロック1を矢印の向きにスライドさせます。



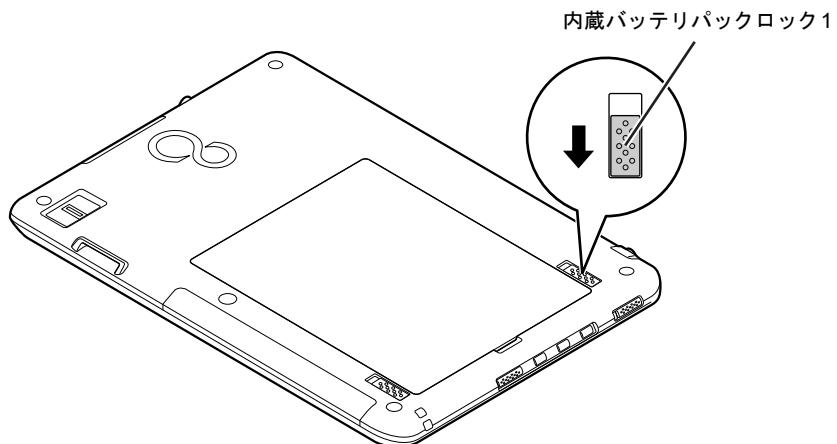
4 内蔵バッテリパックロック2を矢印の向きに押しながら、くぼみに指をかけ、内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げて取り外します。



- 5** 内蔵バッテリパックロック1が解除されていることを確認し、新しい内蔵バッテリパックのふちとパソコン本体のふちを合わせ、内蔵バッテリパックロック2がロックされるまでしっかりとめ込みます。



- 6** 内蔵バッテリパックロック1を矢印の向きにスライドさせ、内蔵バッテリパックをロックします。



2.8.5 バッテリの充電モードを変更する

バッテリの充電モードを「80%充電モード」に変更しバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。

重要

- ▶ 「80%充電モード」に設定すると、バッテリ駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの設定」の順にタップします。
- 2 「変更」をタップします。
- 3 「フル充電モード（100%充電）」または「80%充電モード」を選択し、「OK」をタップします。
- 4 「OK」をタップします。

POINT

- ▶ 「80%充電モード」を選択した場合、「充電完了時にメッセージを表示する」にチェックを付けると、充電完了時に充電完了のメッセージが表示されます。

2.8.6 バッテリの状態を確認する

バッテリの情報の確認や消耗状態の測定は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

■ バッテリの情報を確認する

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの情報」の順にタップします。

■ バッテリの消耗状態を測定する

重要

▶ バッテリの充電と放電を行うため、測定に10時間以上かかる場合があります。

- 1 パソコン本体にACアダプタを接続します。
- 2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの情報」の順にタップします。
- 3 「バッテリー#1の消耗状態を測定」をタップし、表示された注意事項を確認します。
- 4 「OK」をタップして測定を開始します。

2.9 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。

ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.140) をご覧ください。

POINT

- ▶ 本パソコンには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Plugfree NETWORK」→「Plugfree NETWORKの使い方」の順にタップして表示されるヘルプをご覧ください。

2.9.1 無線LAN

無線LANについては、『内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。

無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

2.9.2 無線WAN

対象 HIGH-SPEED対応無線WANモデル

FOMA カードスロットにFOMA カードを取り付けることにより、受信時最大7.2Mbps、送信時最大5.7Mbps の高速パケット通信が可能になります。

FOMA カードを取り付ける方法については、「3.3 FOMA カード」(→P.69) をご覧ください。
無線WANについては、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

2.9.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモ뎀、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

■ Bluetoothワイヤレステクノロジーの特徴

本パソコンに搭載されているBluetoothワイヤレステクノロジーの主な特徴は、次のとおりです。

- 出力Class2、Bluetooth v3.0に準拠しています。Bluetooth v3.0およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
- 最大通信速度は2.1Mbps (Bluetooth v3.0の理論上の最大値) です。

☞ 重要

▶ プロファイルについて

Bluetoothワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつBluetoothワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。

本パソコンでは、本パソコンがサポートしているプロファイルに対応したBluetoothワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。本パソコンがサポートしているプロファイルはHID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HSP、HFP、FTP、BIPです。

■ Bluetoothワイヤレステクノロジーを使用する

Bluetoothワイヤレステクノロジーを使用する方法については、次の手順で表示されるヘルプをご覧ください。

また、お使いになるBluetoothワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

- 1 「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」の順にタップします。
- 2 ウィンドウ右上の「オプション」をタップし、「ヘルプの参照」をタップします。
- 3 「ハードウェア、デバイス、ドライバー」→「Bluetooth」の順にタップします。

■ Bluetoothワイヤレステクノロジーの電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめBluetoothワイヤレステクノロジーの電波を停止してください。

□ ワイヤレススイッチで電波を発信／停止する

ワイヤレススイッチ（→P.11）を「ON」側にスライドさせると電波が発信し、「OFF」側にスライドさせると電波が停止します。

☞ 重要

▶ 搭載されている他の無線機能の電波も同時に発信／停止します。

ユーティリティで電波を停止している場合は、ワイヤレススイッチを「ON」側にスライドさせても電波は発信しません。ユーティリティで電波を発信させるには、「□ ユーティリティで電波を発信／停止する」（→P.57）をご覧ください。

省電力モードでBluetoothワイヤレステクノロジーを無効にしている場合は、ワイヤレススイッチを「ON」側にスライドさせても電波は発信しません。通常モードにするには「■ 省電力モードと通常モードを切り替える」（→P.46）をご覧ください。

□ ユーティリティで電波を発信／停止する

ワイヤレススイッチを「ON」側にスライドしている状態で、Bluetoothワイヤレステクノロジーの電波だけを発信／停止するには、次の操作を行います。

- 1 画面右下の通知領域にある「Bluetooth」アイコン  /  を右タップします。
- 2 電波を発信するには「アダプターを有効にする」を、電波を停止するには「アダプターを無効にする」をタップします。

■ 注意事項

ここでは、Bluetoothワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明します。

□ セキュリティ

重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。

● 不正に使用される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をする可能性があります。

- ・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
- ・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

本パソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンに搭載されているBluetoothワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入されたBluetoothワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetoothワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンに添付されているマニュアルに従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetoothワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『取扱説明書』をご覧になり「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetoothワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□ 通信

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径10m以内（出力Class2の最大値）です。

ただし、Bluetoothワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- 本パソコンのBluetoothワイヤレステクノロジー用アンテナは、パソコン本体内蔵されています。本パソコンの使用中、特にBluetoothワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。Bluetoothワイヤレステクノロジー用アンテナの場所については、「1章 各部名称」(→P.10)をご覧ください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所をえてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- BluetoothワイヤレステクノロジーはIEEE 802.11b、IEEE 802.11gやIEEE 802.11nの2.4GHz帯規格の無線LANと同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線LANとBluetoothワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンなどとの通信速度が低下したり、Bluetoothワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなったりする場合があります。
- 無線LAN機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。無線LANについては『内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。
 - ・無線LAN機器とパソコン本体との間を10m以上離して使用する。
 - ・無線LAN機器の電源を切る。
 - ・無線LAN機器の電波を、ユーティリティを使って停止する。
 - ・無線LANの5GHz帯を利用する（ただし利用できるのは屋内ののみ）。
- 本パソコンにUSBアダプタ型などの他のBluetoothワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

□ 電波放射の環境への影響

- 本パソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、本パソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- 本パソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本パソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、本パソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
 - ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本パソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

□ 電波放射の人体への影響

- 本パソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりも低くなっています。それでも、本パソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中は本パソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

□ 干渉

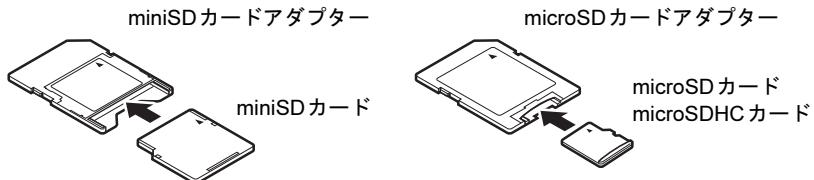
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- 本パソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（本パソコンの電源をオン／オフすることで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・本パソコンと受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントに本パソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- 本パソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

2.10 メモリーカードスロット

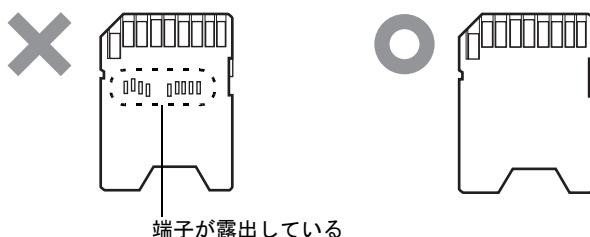
ここでは、SDメモリーカードスロットに、SDメモリーカードなどのメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。
メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、SDメモリーカードスロットの仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.140)をご覧ください。

2.10.1 注意事項

- miniSDカード、microSDカード、microSDHCカードをお使いになるには、アダプターが必要です。そのまま挿入するとメモリーカードが取り出せなくなります。



- アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしたり取り出したりしてください。アダプターだけをSDメモリーカードスロットに残すと、故障の原因となります。
- 裏面の中央部に端子が露出しているタイプのminiSDカードアダプターは使用できません。故障の原因となります。



2.10.2 使用できるメモリーカード

すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード		対応
SD メモリーカード ^{注1}	SD メモリーカード (2GB以下)	○
	SD メモリーカード (4GB以上)	×
	miniSD カード ^{注2}	○
	microSD カード ^{注2}	○
	SDHC カード	○
	microSDHC カード ^{注2}	○
	SDIO カード	×

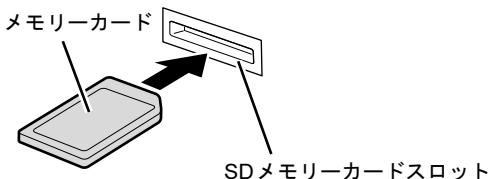
注1：・著作権保護機能には対応していません。

・マルチメディアカード (MMC)、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

注2：アダプターが必要です。

2.10.3 メモリーカードをセットする

- 1 メモリーカードのラベル面を上に、端子側を奥にして「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードスロット（→P.12）に差し込みます。



POINT

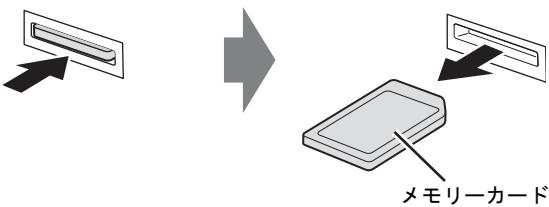
- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、必要に応じて動作を選択するか、ウィンドウを閉じてください。

2.10.4 メモリーカードを取り出す

- 1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン  をタップします。
- 2 取り外すメモリーカードをタップし、表示されるメッセージに従います。
- 3 メモリーカードを一度押し、少し出てきたメモリーカードを引き抜きます。

※ 重要

- ▶ メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、SDメモリーカードスロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出ると、けがの原因になります。



メモリーカード

2.11 タブレットボタン

タブレットボタンは本パソコンのさまざまな機能を呼び出すためのボタンです。ここでは、タブレットボタンの使い方について説明しています。

2.11.1 タブレットボタンを使う

タブレットボタン（→P.16）を押すことにより次の動作を簡単に実行できます。動作はご購入時の設定です。タブレットボタンを押したときの動作を変更するには「2.11.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.63）をご覧ください。

タブレットボタンの操作	動作
キーボードボタン（■）を押す	「タッチ文字入力」（→P.24）を起動します。 「2.11.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.63）
キーボードボタン（■）を2秒以上押す	「FujitsuHL」（→P.64）を起動します。 「2.11.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.63）
ローテーションボタン（□）を押す	あらかじめ設定した順番で画面表示の向きを切り替えます。 「□ ローテーションボタンの設定を変更する」（→P.36）
ローテーションボタン（□）を2秒以上押す	「Auto Rotation Utility」（→P.38）の有効と無効を切り替えます。
Ctrl + Alt + Delete ボタン（△）を2秒以上押す	【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押したときの動作をします。

2.11.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する

タブレットボタンを押したときの動作は次の手順で変更します。

1 コントロールパネルの「Tablet PC設定」を開きます。

「ハードウェアとサウンド」→「Tablet PC設定」

2 「ボタン」タブをタップします。

- 3 「タブレットボタン」の一覧で、変更したいタブレットボタンの名称をタップし、「変更」をタップします。**

表示されているタブレットボタンの名称と、タブレットボタンの操作の対応は次のとおりです。

表示されている タブレットボタンの名称	タブレットボタンの操作
1ボタン	キーボードボタン（図）を押す

- 4 動作を設定し「OK」をタップします。**

POINT

- ▶ 「プレスアンドホールド」に2秒以上押したときの動作を設定することもできます。

- 5 「OK」をタップします。**

2.11.3 アプリケーションランチャーを使う

■ 「FujitsuHL」とは

「FujitsuHL」とは、ソフトウェアや、文書や画像のデータをアイコンで一覧表示し、タップで簡単に起動できるようにするソフトウェアです。

「FujitsuHL」上では、次のようなこともできます。

- よく使用するソフトウェアをランチャーに登録する
- 「ピクチャ」フォルダーや「ドキュメント」フォルダーに格納してあるファイルを開く
- 本パソコンのWebカメラで静止画を撮影する

■ 注意事項

- ディスプレイの解像度が1280×800以外では、「FujitsuHL」を使用することはできません。

■ 「FujitsuHL」を起動する

「FujitsuHL」を起動するには、パソコン本体のキーボードボタン（→P.16）を2秒以上押します。

「FujitsuHL」の詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→

「FujitsuHL」→「FujitsuHLユーザーズマニュアル」の順にタップして表示されるマニュアルをご覧ください。

POINT

- ▶ 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FujitsuHL」→「FujitsuHL」の順にタップして起動することもできます。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に	66
3.2 クレードル	67
3.3 FOMAカード	69
3.4 コネクタの接続／取り外し	71

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 クレードル

対象 クレードル選択時

パソコン本体にクレードルを取り付けると、クレードルに搭載されているコネクタを使用できるようになります。

ここでは、クレードルの取り付け、取り外し方法について説明しています。

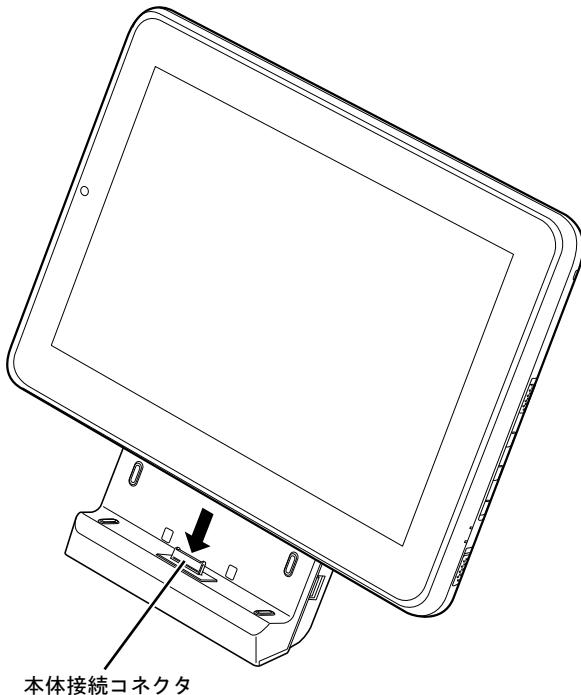
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.66)をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- クレードルを取り付けた状態では、本パソコンを持ち運ばないでください。パソコン本体およびクレードルのコネクタの破損の原因となります。
- クレードルをお使いになる場合は、必ずクレードルのDC-INコネクタ(→P.17)に、パソコン本体に添付のACアダプタを接続してください。

3.2.2 クレードルを取り付ける

- 1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.71）。
- 2 本体接続コネクタ（→P.17）の位置を合わせてパソコン本体をクレードルに沿って下ろし、しっかりと取り付けます。



3.2.3 クレードルを取り外す

- 1 クレードルのコネクタに接続されている周辺機器の電源を切ります。
- 2 パソコン本体をクレードルから取り外します。
クレードルを押さえつつ、クレードルに沿ってパソコン本体を持ち上げます。

3.3 FOMAカード

対象 HIGH-SPEED対応無線WANモデル

本パソコンのFOMAカードスロットにFOMAカードを取り付けると、無線WANによる通信ができるようになります。

ここでは、FOMAカードの取り付け、取り外しについて説明しています。無線WANの使い方については、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

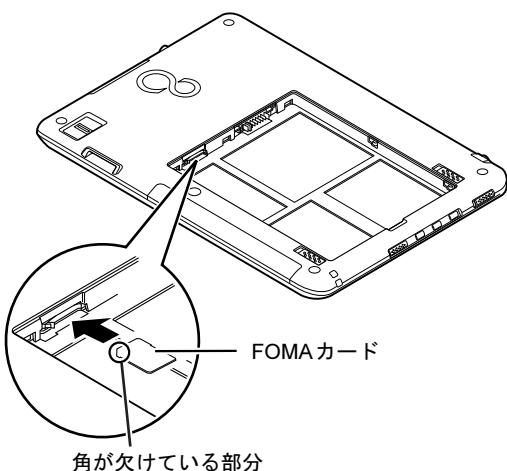
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.66)をお読みになってから作業をしてください。

3.3.1 注意事項

- FOMAカードの表面にテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。
- FOMAカードを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取り外してください。

3.3.2 FOMAカードを取り付ける

- 1 「2.8.4 バッテリを交換する」(→P.51)をご覧になり、バッテリを取り外します。
- 2 FOMAカードの角が欠けている部分を左側に、端子が露出している面を下側にして「カチッ」と音がするまでFOMAカードスロットに押し込みます。



- 3 「2.8.4 バッテリを交換する」(→P.51)をご覧になり、バッテリを取り付けます。

3.3.3 FOMAカードを取り外す

- 1** 「2.8.4 バッテリを交換する」(→P.51)をご覧になり、バッテリを取り外します。
- 2** FOMAカードを一度押します。
FOMAカードが少し出でてきます。
- 3** FOMAカードを引き抜きます。
- 4** 「2.8.4 バッテリを交換する」(→P.51)をご覧になり、バッテリを取り付けます。

3.4 コネクタの接続／取り外し

ここでは、パソコン本体やケーブルのコネクタに、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。

接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.140)をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.66)をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかつたり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前にご確認ください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.4.2 ディスプレイコネクタ



デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）

外部ディスプレイを接続します。パソコン本体の電源を切ってから接続してください。

■ 接続する

□ デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）に、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
- 3 ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

■ 取り外す

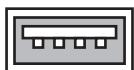
☞ 重要

- ▶ マルチディスプレイ機能（→P.32）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□ デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）

- 1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.3 USBコネクタ



USB対応周辺機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

☞ 重要

- ▶ USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
 1. 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをタップします。
 2. 取り外すデバイスをタップし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子にオーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

4

第4章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。日ごろからセキュリティ向上を心がけてください。

4.1 コンピューターウィルス	75
4.2 Windows やソフトウェアを最新の状態にする	76
4.3 不正使用からのセキュリティ	77
4.4 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意	80
4.5 データのバックアップ	83

4.1 コンピューターウイルス

4.1.1 コンピューターウイルス対策

■ ノートンアンチウイルス

本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「ノートンアンチウイルス」が添付されています。

□ 注意事項

- 「ノートンアンチウイルス」を起動していると、ご使用のソフトウェアによっては正常にインストールされなかつたり、不具合が発生したりすることがあります。ご注意ください。

□ インストール方法

「5.2.2 「ノートンアンチウイルス」のインストール」(→P.92) をご覧ください。

□ ウィルス定義ファイルの更新（LiveUpdate）

「ノートンアンチウイルス」のウィルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。ウィルス定義ファイルは、自動的に更新する方法と、手動で更新する方法があります。詳しくは「ノートンアンチウイルス」のヘルプをご覧ください。

POINT

- ▶ 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って実行してください。
- ▶ 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。

4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする

Windowsやソフトウェアの脆弱性が悪用されると、コンピューターウィルスなどの悪意あるプログラムに侵入されたり、トラブルが引き起こされたりする危険性があります。

Windowsやソフトウェアの修正プログラムが発表されたときには、内容を確認のうえ適用してください。

4.2.1 Windows Update

マイクロソフト社が提供するシステムサポート機能です。Windowsを最新の状態に更新します。脆弱性を修正するセキュリティ機能更新、バグ修正などの対策プログラムが配布されます。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）

弊社が提供するサポート機能です。お使いのコンピューターのドライバーや添付ソフトウェアの最新版が、弊社アップデートサイトに公開されているか調査し、適用することができます。スタートメニューの「UpdateAdvisor（本体装置）」から起動できます。

4.3 不正使用からのセキュリティ

ここでは、不正使用からパソコンを守るため、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明しています。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピューターの安全性も高まります。

☞ 重要

- ▶ コンピューターの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。セキュリティがかかる状態では、保証期間にかかる修理は有償となります。
- ▶ パスワードは数字だけでなく英字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

4.3.1 BIOSのパスワード

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。パスワードを知っている人だけがパソコンを起動できます。

また、コンピューターのフラッシュメモリディスク自体にパスワードを設定できます。

詳しくは、「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.105)をご覧ください。

4.3.2 指紋センサー

Windowsの起動時、ソフトウェアのログオン時に指紋認証によるセキュリティを設定できます。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

4.3.3 スマートカード

Windowsの起動時、ソフトウェアのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

4.3.4 セキュリティチップ

対象 セキュリティチップ搭載機種

セキュリティチップは、Windows ログオンのパスワードやファイルを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをフラッシュメモリディスクに残さないため、フラッシュメモリディスクが盗まれても暗号を解析できません。

セキュリティチップに格納したデータにアクセスするには専用のインターフェースが必要です。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

POINT

- ▶ セキュリティチップを使った、SMARTACCESS/Basicの機器監査機能は使用できません。

4.3.5 Portshutter

USBポートや光学ドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。USB機器ごとに接続ポートの有効・無効を設定できます。

詳しくは、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

4.3.6 暗号化機能付フラッシュメモリディスク

「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、OSやプログラムを含むフラッシュメモリディスク上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号化します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。

BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、フラッシュメモリディスクへのアクセスはパスワードで管理され、認証された使用者のみが復号化されたデータ入手できます。

また、本パソコンからフラッシュメモリディスクを抜き取り、他のパソコンに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.105)をご覧ください。

4.3.7 エグゼキュー・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュー・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファーオーバーフロー脆弱性を防止する機能です。詳しくは、「9.2 CPU」(→P.143)をご覧ください。

4.4 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、パソコンを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

4.4.1 パソコンの廃棄・譲渡時のフラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意

パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンの中のフラッシュメモリディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このフラッシュメモリディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、フラッシュメモリディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのフラッシュメモリディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

パソコンユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、フラッシュメモリディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、フラッシュメモリディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、フラッシュメモリディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、フラッシュメモリディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

4.4.2 フラッシュメモリディスクデータ消去

本パソコンには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、フラッシュメモリディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- パソコン本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとフラッシュメモリディスクのリカバリ領域も消去されます。
- 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を起動してから、72時間経過すると、本パソコンが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。本パソコンで「ハードディスクデータ消去」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- データ消去中に電源を切らないでください。フラッシュメモリディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- フラッシュメモリディスク搭載機種の場合は、「ハードディスクデータ消去」を一度実行しただけでは、完全にデータを消去することができません。必ず2回以上実行してください。
- 光学ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、ポータブルCD/DVD ドライブを接続してください。
ポータブルCD/DVD ドライブをお使いになる場合は、富士通製品情報ページ内の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

■ データ消去方法

「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を用意してください。

- 1 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」をセットします。**
- 2 「6.2.4 起動メニューを使用する」(→P.99) をご覧になり、光学ドライブから起動します。**
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ユーティリティ」タブをタップし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をタップします。**
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。
- 4 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。**
データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。
- 5 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を取り出します。**
- 6 電源スイッチを4秒以上スライドさせて、電源を切ります。**

4.5 データのバックアップ

本パソコンには、簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェア「Easy Backup」が添付されています。必要に応じてお使いください。

「Easy Backup」のインストール方法については、「5.2 インストール」(→P.90)をご覧ください。

5

第5章

ソフトウェア

本パソコンにプレインストール（添付）されている
ソフトウェアの概要や、インストール、アンインス
トル方法を説明しています。

5.1 ソフトウェアの紹介	85
5.2 インストール	90
5.3 アンインストール	93

5.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本パソコンにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。

ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」などに格納されています。

また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。

各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- インストール方法
「5.2 インストール」(→P.90)をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
インターネット上のマニュアル (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/>) の機能別のマニュアルをご覧ください。

5.1.1 一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

● OSについて

お使いのパソコンに該当するOSの欄をご覧ください。

- ・ Win7(32) : Windows 7 (32ビット版)

● 提供形態について

▼ : ご購入時にインストール済み

◇ : Cドライブに格納 (ご購入時にはインストールされていません)

○ : 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」に格納

- : 搭載されていないか、対象となる機種がありません

5.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.85) をご覧ください。

名称	概要	Win7 (32)
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から90日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇
Portshutter	USBポートや光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	○
SMARTACCESS/ Basic	セキュリティチップ、スマートカード、指紋センサーを使用するためのソフトウェアです。	○
ノートン アンチウイルス	コンピューターウィルスを検出・駆除します。 詳しくは、「4.1.1 コンピューターウィルス対策」(→P.75) をご覧ください。	◇
ハードディスク データ消去	フラッシュメモリディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「4.4.2 フラッシュメモリディスクデータ消去」(→P.81) をご覧ください。	○

5.1.3 サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.85) をご覧ください。

名称	概要	Win7 (32)
PC乗換ガイド	今までお使いになっていたパソコンから、現在お使いのパソコンへ必要なデータを移行することができます。 ・「PC乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	○
UpdateAdvisor (本体装置)	お使いのパソコンのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。 また、「UpdateAdvisor (本体装置) 情報収集」を利用してお使いのパソコンの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor (本体装置) 情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	▼
サポートナビ	本パソコンを快適にお使いいただくためのナビゲーションツールを目的別に分類したランチャーです。 デスクトップの「サポートナビ」アイコンから起動できます。	▼

5.1.4 ユーティリティ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.85) をご覧ください。

名称	概要	Win7 (32)
Adobe Reader	PDFファイルを表示、閲覧、印刷できます。	▼
Auto Rotation Utility	画面の回転に合わせて、縦方向または横方向に自動的に表示を切り替えます。たとえば、ソフトキーボードを縦方向で表示するとキーが小さく表示されるのでタップしづらい場合は、画面を横方向に回転させて大きく表示することにより、キー入力しやすくなります。	▼
DataShare	ネットワークを経由して、他のパソコンとの間で、共有フォルダ内にあるファイルを受け渡しできるようにするソフトウェアです。	○
Easy Backup	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	○
Fujitsu Display Manager	パソコンの画面表示設定の組み合わせを「プリセット」として保存し、必要に応じて保存した設定を復元することができます。	▼
FujitsuHL	よく使用するソフトウェアをタップするだけで起動したり、文書データや画像データに簡単にアクセスしたりできるソフトウェアです。 詳しくは、「2.11.3 アプリケーションランチャーを使う」(→P.64) をご覧ください。	▼
Googleツールバー	「Internet Explorer」のツールバーにある検索キーワード入力欄から、検索サービスサイト「Google」にアクセスして検索できます。 検索キーワードを入力するときに関連語句のヒントが表示されたり、検索履歴を簡単に見ることができるなどの便利な機能も含まれます。	▼
Mobile Partner	対象 HIGH-SPEED 対応無線WANモデル 無線WANを接続するために必要となる設定を行うソフトウェアです。 また、SMS(ショートメッセージサービス)を利用することができます。	▼
OnScreen Touchpad	タッチパネルの一部をマウスやテンキーのように使うことができるソフトウェアです。 詳しくは、「2.1.5 タッチパネルの補助機能を使う」(→P.25) をご覧ください。	▼
Plugfree NETWORK	無線LANや有線LAN、およびダイヤルアップネットワークに接続するための設定を統合的に管理するソフトウェアです。 「Plugfree NETWORK」が接続したネットワークを判定し、会社、通勤中、自宅など、パソコンを使う場所が変わっても、自動で最適な設定に切り替えます。 「ネットワーク診断」でネットワークの状態を確認し、トラブル解決のサポートをします。	▼

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.85) をご覧ください。

名称	概要	Win7 (32)
Systemwalker Desktop Patrol Lite	パソコンの使用状況（電力量、電力料金、CO2排出量）の概算を計算したり、省電力設定やセキュリティ設定を確認したりすることができます。例えばスリープに移行するまでの時間設定が非常に長いなど、あらかじめ決められた設定と異なった場合には、そのことを利用者に通知し、設定を変更することもできます。 省電力設定については、「国際エネルギースターープログラム」のエネルギースター適合基準を基に、モニターの電源を切る時間、およびスリープに移行する時間を設定します。	○
Windows Live Messenger	インターネットに接続している環境で、リアルタイムでメッセージを交換することができます。	▼
省電力 ユーティリティ	Windowsの稼働中に省電力モードを利用できます。省電力モードの設定方法については「2.7.6 省電力モード」(→P.46) をご覧ください。	▼
タッチ文字入力	画面に表示された文字をタッチしたり、入力したい文字を画面に手書きしたりして文字を入力するソフトウェアです。 詳しくは、「■ 「タッチ文字入力」を使う」(→P.24) をご覧ください。	▼
ドコモ コネクション マネージャ	対象 HIGH-SPEED 対応無線WANモデル 無線WANへ接続するためのソフトウェアです。	◇
バッテリー ユーティリティ	バッテリの充電モードを変更してバッテリの寿命を延ばしたり、バッテリの情報を表示したり、消耗状態を測定したりすることができます。詳しくは、「2.8 バッテリ」(→P.48) をご覧ください。	▼
富士通拡張機能 ユーティリティ	本パソコンのハードウェア拡張機能をサポートします。	▼
ゆったり設定mini	タイトルバーやスクロールバーのサイズを変更することができます。サイズを大きくすると、「最大化」ボタン、「最小化」ボタン、「閉じる」ボタンやスクロールバーが操作しやすくなります。	▼

5.1.5 メールソフト

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.85) をご覧ください。

名称	概要	Win7 (32)
Windows Live メール	Eメール、カレンダー、アドレス帳、フィード、およびニュースグループをすべて1ヶ所で管理するためのソフトウェアです。	▼

5.1.6 Office製品

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。
ご購入時にOfficeはインストールされています。

POINT

- ▶ 製品に添付されているリカバリデータディスクを使用してリカバリを実行した場合、Officeはインストールされません。添付のOfficeパッケージのディスクから、別途インストールしてください。

Officeをお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.85)をご覧ください。

名称	含まれるソフトウェア	概要	Win7 (32)
Microsoft® Office Home and Business 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算	
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理	
	Microsoft® PowerPoint® 2010	プレゼンテーション	
	Microsoft® OneNote® 2010	デジタルノート	
Microsoft® Office Personal 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算	
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理	

5.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。

データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアルやソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

☞ 重要

- ▶ 誤ったドライバーをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- ▶ 管理者権限をもったユーザーとしてWindowsにログオンしてからインストールしてください。

5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使ってインストールできます。

- ・トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク（「SMARTACCESS/Basic」を除く）

☞ 重要

- ▶ ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。必要に応じてインストールしてください。なお、本パソコンに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をタップしてください。
- ▶ 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にタップします。
 2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右タップし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をタップします。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「ソフトウェア」から、インストールするソフトウェアを選択します。 「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

5 表示されたフォルダー内の「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧になり、インストールしてください。

次のソフトウェアはインストール方法が異なります。

● **Adobe Reader**

「AdbeRdr1000_ja_JP.exe」アイコンをダブルタップし、表示された画面の指示に従ってください。

 **POINT**

- ▶ インストール中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をタップして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

● **Portshutter**

「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

5.2.2 「ノートンアンチウイルス」のインストール

C ドライブに格納されています。

- 1 次のファイルを実行し、表示されるメッセージに従ってインストールします。

C:\Fujitsu\bundle\NAV\Fujitsu_Ltd_NAV_18.5_OEM90_21164437.exe

- 2 インストールが完了したら本パソコンを再起動します。

5.2.3 「I-フィルター」のインストール

C ドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:\Fujitsu\bundle\I-Filter\Readme.txt

5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール

「SMARTACCESS/Basic」は「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

5.2.5 Office製品のインストール

Office製品のインストール方法については、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。インストール後は「Microsoft Update」を利用するなどして、ソフトウェアを最新の状態に更新してください。

5.3 アンインストール

5.3.1 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか?」

このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

5.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重要

- ▶ 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
 - ・セキュリティチップ

6

第6章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

6.1 BIOSセットアップ	95
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた	96
6.3 メニュー詳細	100
6.4 設定事例集	105

6.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやフラッシュメモリディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本パソコンご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

- ・特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワードを設定するとき
- ・起動デバイスを変更するとき
- ・セキュリティチップの設定を変更するとき
- ・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

※重要

- ▶ BIOSセットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください。
- ▶ 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

6.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

6.2.1 BIOSセットアップを起動する

1 ローテーションボタンを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、ボタンを離します。

起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

詳しくは、「■ パスワードを使用する」(→P.107)をご覧ください。

BIOSセットアップ画面が表示されます。

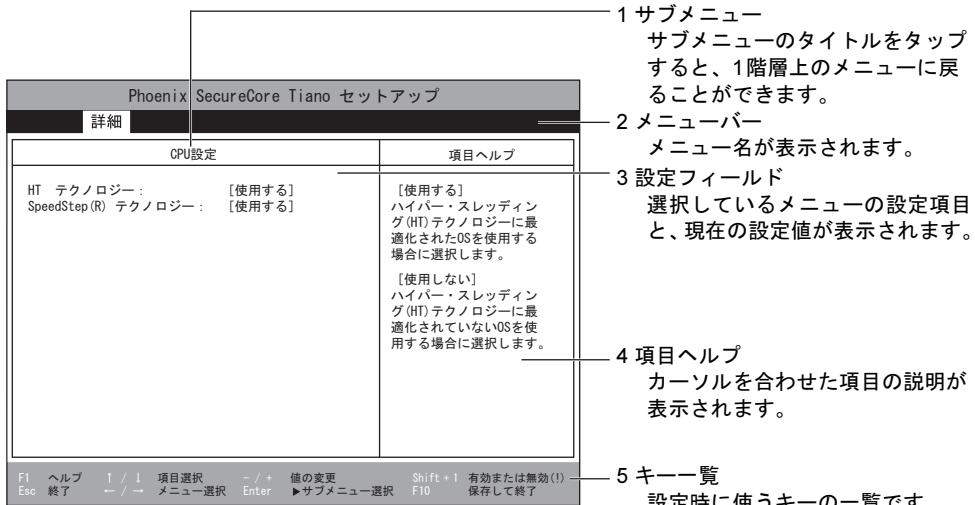
POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。

6.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。



- ・セットアップ画面で設定を変更する場合は、項目をタップして選択した後、もう一度タップします。または、項目をタップして選択した後、「キー一覧」にある「Enter」をタップします。
- ・サブメニューからメインメニューに戻る場合は、サブメニューのタイトルをタップするか、または、「キー一覧」にある「Esc」をタップします。
- ・文字や数値の入力が必要な場合は、入力用ウィンドウをタップするとソフトウェアキーボードが表示されるので、値を入力します。

6.2.3 BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

- 1 「終了」メニューをタップします。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで「Esc」を2～3回タップしてください。
- 2 「変更を保存して終了する」または「変更を保存して電源を切る」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認メッセージが表示されます。
- 3 「はい」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
BIOSセットアップが終了します。「変更を保存して終了する」を選択した場合はWindowsが起動し、「変更を保存して電源を切る」を選択した場合はパソコンの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

- 1 「終了」メニューをタップします。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで「Esc」を2～3回タップしてください。
- 2 「変更を保存せずに終了する」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- ▶ 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

- 3 「いいえ」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
BIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

重要

- ▶ 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

6.2.4 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本パソコンを起動します。「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」から本パソコンを起動する場合などに使用します。

☞ 重要

- ▶ BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。

1 キーボードボタンを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、ボタンを離します。

起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

詳しくは、「■ パスワードを使用する」(→P.107)をご覧ください。

起動メニューが表示されます。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。
選択したデバイスから本パソコンが起動します。

POINT

- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから「Enter」をタップしてください。
光学ドライブのデータの読み出し中に「Enter」をタップすると、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- ▶ 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、「Esc」をタップしてください。

6.3 メニュー詳細

ここでは、BIOSセットアップのメニューについて説明しています。

BIOSセットアップのメニューは次のとおりです。

メニュー	説明
情報 (→P.100)	BIOSやパソコン本体についての情報が表示されます。
システム (→P.101)	日時や言語、ドライブの機能などを設定します。
詳細 (→P.101)	CPUや内蔵デバイス、周辺機器などを設定します。
セキュリティ (→P.103)	パスワードなどのセキュリティ機能を設定します。
起動 (→P.104)	本パソコンの起動時の動作について設定します。
終了 (→P.104)	設定値の保存や読み込み、BIOSセットアップの終了などを行います。

◀ 重要

- ▶ BIOSセットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

POINT

- ▶ 一部の項目は、該当機能を搭載した機種でのみ表示されます。
また一部の項目は、他の項目の設定によって表示されなかったり設定変更不可（グレー表示）になったりします。詳しくは各項目の備考欄をご覧ください。
- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている場合、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動すると、設定値がグレー表示される項目があります。
グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

6.3.1 情報メニュー

BIOSやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

設定項目	備考
型名	
カスタムメイド番号	
製造番号	
BIOS版数	
CPUタイプ	
全メモリ容量	1MB=1024 ² バイト換算
標準メモリ	1MB=1024 ² バイト換算
UUID	
パネルID	

6.3.2 システムメニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
システム時刻 □ 00 : 00 : 00 ~ 23 : 59 : 59	【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】+【Tab】キー……左の項目に移動
システム日付 □ 01/01/1980 ~ 12/31/2099	【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】+【Tab】キー……左の項目に移動
ドライブ構成 ドライブ0 □ 使用しない ■ 使用する	「標準設定値を読み込む」実行後は再起動が必要
言語 (Language) □ English (US) ■ 日本語 (JP)	

6.3.3 詳細メニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
起動設定 高速起動 ■ 使用しない □ 使用する	
起動時の自己診断画面 ■ 使用しない □ 使用する	
キーボード／マウス設定 起動時のNumlock設定 □ オン ■ オフ	標準キーボード搭載機種のみ表示
その他の内蔵デバイス設定 Bluetooth(R) □ 使用しない ■ 使用する	
無線LANデバイス □ 使用しない ■ 使用する	
WWANデバイス □ 使用しない ■ 使用する	HIGH-SPEED対応無線WANモデルのみ表示
内蔵カメラ（前） □ 使用しない ■ 使用する	
内蔵カメラ（後） □ 使用しない ■ 使用する	
CPU設定 HTテクノロジー □ 使用しない ■ 使用する	対応CPU搭載機種のみ表示
SpeedStep(R)テクノロジー □ 使用しない ■ 使用する	対応CPU搭載機種のみ表示

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
USB設定	
レガシー USBサポート □使用しない ■使用する	「使用しない」時はFDDユニット（USB）からの起動不可
SCSIサブクラスサポート □使用しない ■使用する	「レガシー USB サポート」が「使用する」時のみ設定変更可能 <small>注</small>
各種設定	
自動 Save To Disk ■オフ □オン	
音量設定 □オフ □小 ■中 □大	
イベントログ設定	
イベントログ領域の状態	
イベントログ内容の状態	
イベントログの表示 > Enter	
イベントログ □保存しない ■保存する	
イベントログの消去 > Enter	
イベントログのマーク > Enter	現在までのイベントログを既読に設定し、以降表示されないようにする

注：接続されているデバイスによっては、「使用する」に設定すると本パソコンが起動しなくなる場合があります。その場合は、デバイスを取り外して再起動してください。

6.3.4 セキュリティメニュー

選択肢 初期値

設定項目	備考
管理者用パスワード	設定状況を表示
ユーザー用パスワード	設定状況を表示
管理者用パスワード設定 > Enter	「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.105)
ユーザー用パスワード設定 > Enter	「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.105)
ユーザー用パスワード文字数 <input type="checkbox"/> 0~32	
起動時のパスワード <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
取外し可能なディスクからの起動 <input checked="" type="checkbox"/> 常に可能 <input type="checkbox"/> 管理者のみ	
BIOS フラッシュメモリへの書き込み <input type="checkbox"/> 禁止 <input checked="" type="checkbox"/> 可能	
起動メニュー <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	【F12】キーによる起動メニュー呼び出しの設定
ハードディスクセキュリティ	
ドライブ0用	設定状況を表示
マスターパスワード設定 > Enter	「管理者用パスワード」、およびハードディスクの「ユーザー パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.105)
ユーザーパスワード設定 > Enter	「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.105)
起動時のパスワード入力 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	設定に関わらずOSの再起動時は要求なし
所有者情報	
所有者情報	
所有者情報設定 > Enter	
文字色 <input checked="" type="checkbox"/> グレー 他	全16色から選択可
背景色 <input checked="" type="checkbox"/> 黒 他	全16色から選択可

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
TPM（セキュリティチップ）設定	セキュリティチップ選択時のみ設定可能
セキュリティチップ □使用しない ■使用する	設定変更は再起動後に有効
現在のTPM状態	
TPM状態の変更 ■変更しない □有効かつ使用可 □無効かつ使用不可	設定変更は再起動後に有効
セキュリティチップのクリア > Enter	<ul style="list-style-type: none"> ・クリアは再起動後に実行 ・「現在のTPM状態」が「無効かつ使用不可」の場合には選択不可

6.3.5 起動メニュー

設定項目	備考
起動デバイスの優先順位	
Floppy Disk Drive Drive0 HDD USB HDD USB CD/DVD	「6.4.2 起動デバイスを変更する」(→P.108)

6.3.6 終了メニュー／Exitメニュー

項目を選んで【Enter】キーを押すと、確認画面が表示されます。

設定項目	備考
変更を保存して終了する	
変更を保存せずに終了する	注
標準設定値を読み込む	次の項目は対象外 - 言語設定 - システム時刻 - システム日付 - BIOSパスワード - ハードディスクパスワード - 所有者情報
変更前の値を読み込む	
変更を保存する	
変更を保存して電源を切る	

注：確認画面で「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。「いいえ」を選択してください。

6.4 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況に合わせてご覧ください。

- ・ BIOSのパスワード機能を使う (→P.105)
- ・ 起動デバイスを変更する (→P.108)
- ・ セキュリティチップの設定を変更する (→P.109)
- ・ イベントログを確認する (→P.110)
- ・ ご購入時の設定に戻す (→P.110)

6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次のとおりです。

□ 管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

□ ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。

ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合、次の項目を設定することができます。

システム	システム時刻	
	システム日付	
	言語 (Language)	
詳細	CPU設定	SpeedStep(R) テクノロジー
	各種設定	音量設定
	イベントログ設定	イベントログの表示
セキュリティ	ユーザー用パスワード設定	
	ハードディスクセキュリティ	ドライブn：ユーザー用パスワード設定
終了	変更を保存して終了する	
	変更を保存せずに終了する	
	変更を保存する	
	変更を保存して電源を切る	

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ ハードディスクパスワード

本パソコンのフラッシュメモリディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。

■ パスワードを設定／変更／削除する

◀ 重要

- ▶ 「管理者用パスワード」またはハードディスクパスワードを変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- ▶ 「ユーザー用パスワード」やハードディスクパスワードを設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。
- ▶ 「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、全データを自動的に暗号化、復号化していますが、ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。

- 1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。
 1. 本パソコンの電源が入っている場合は、シャットダウンします。
 2. BIOSセットアップを起動します（→P.96）。
- 2 「セキュリティ」メニューで次の項目をタップして選択し、「Enter」をタップします。
 - 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合
 - ・「管理者用パスワード設定」
 - ・「ユーザー用パスワード設定」
 - ハードディスクパスワードを設定する場合
 - ・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「マスターパスワード設定」
 - ・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「ユーザーパスワード設定」

POINT

- ▶ ハードディスクの「マスターパスワード」を設定するためには、「管理者用パスワード」とハードディスクの「ユーザーパスワード」が設定されている必要があります。

- 3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。「新しいパスワードを入力して下さい。」をタップすると、ソフトウェアキーボードが表示されます。
- 4 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。
パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移ります。

POINT

- ▶ パスワードには、アルファベットと数字を使用できます。大文字、小文字は区別されません。
- ▶ 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- ▶ BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。
「Enter」をタップしてウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」(→P.98)

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されて警告音が鳴ります。
この場合は、電源スイッチを4秒以上スライドさせて本パソコンの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
 - BIOSセットアップを起動するとき
 - 本パソコンを起動するとき
 - 休止状態からリジュームするとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

パスワードを入力して下さい。 []

- ハードディスクパスワード
 - 本パソコンを起動するとき

次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。

ドライブ0のハードディスクはロックされています。

パスワードを入力して下さい。 []

■ パスワードを忘れてしまったら

重要

- ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもフラッシュメモリディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

- ハードディスク用ユーザーpasswordを忘れてしまった
ハードディスク用マスターpasswordが設定されている場合のみ、マスターpasswordを削除するとユーザーpasswordも削除されます。
マスターpasswordを設定していなかった場合は、修理が必要です。修理は保証期間にかかるわらず、有償になります。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかるわらず、有償になります。

- 管理者用passwordを忘れてしまった
- ハードディスク用マスターpasswordを忘れてしまった

6.4.2 起動デバイスを変更する

本パソコンの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。

「起動デバイスの優先順位」に設定されている順にOSを検索します。

- 1 「起動」メニューをタップします。
- 2 優先順位を変更したいデバイスをタップして選択します。
- 3 次の項目をタップして、優先順位を変更します。

「+」	選択したデバイスを1つ上に移動します。
「-」	選択したデバイスを1つ下に移動します。
「Shift + 1」	選択したデバイスを有効または無効に設定します。

- 4 「起動デバイスの優先順位」が希望する順番になるまで、手順2～3を繰り返します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」(→P.98)

6.4.3 セキュリティチップの設定を変更する

対象 セキュリティチップ搭載機種

■ セキュリティチップの状態を変更する

管理者用パスワードを設定してから、次の手順でセキュリティチップの設定を変更してください。

- 1 「セキュリティ」メニューをタップします。
- 2 「TPM（セキュリティチップ）設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
- 3 「TPM状態の変更」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
- 4 「有効かつ使用可」もしくは「無効かつ使用不可」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」(→P.98)

■ セキュリティチップをクリアする

管理者用パスワードを設定してから、次の手順でセキュリティチップの設定を変更してください。

- 1 「セキュリティ」メニューをタップします。
- 2 「TPM（セキュリティチップ）設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
- 3 「セキュリティチップのクリア」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認画面が表示されます。

POINT

- ▶ セキュリティチップの状態が「無効かつ使用不可」の場合、「セキュリティチップのクリア」はグレー表示され選択できません。この場合は、セキュリティチップの状態を「有効かつ使用可」に変更してから改めて操作してください。

- 4 「はい」をタップします。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」(→P.98)

■ ソフトウェアからの変更を反映する

Windows上のソフトウェアを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本パソコンの再起動後に、変更が有効になっていることがあります。再起動を要求するメッセージが表示されたら、次の手順に従って操作してください。

1 本パソコンの電源を入れるまたは再起動します。

起動時の自己診断が実行された後、TPM設定変更の確認画面が表示されます。

2 ローテーションボタンを押します。

セキュリティチップの状態が変更されます。

6.4.4 イベントログを確認する

1 「詳細」メニューをタップします。

2 「イベントログ設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

3 「イベントログの表示」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「8.2.5 エラーメッセージ一覧」(→P.131) の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

6.4.5 ご購入時の設定に戻す

1 「終了」メニューをタップします。

2 「標準設定値を読み込む」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

確認メッセージが表示されます。

3 「はい」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。

● 「標準設定値を読み込む」で変更されない項目

- ・日時の設定
- ・言語設定
- ・管理者用パスワード
- ・ユーザー用パスワード
- ・ハードディスクパスワード
- ・所有者情報

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」(→P.98)

7

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

7.1 日常のお手入れ	112
-------------------	-----

7.1 日常のお手入れ

パソコン本体や周辺機器を長時間ご使用になると、汚れが付いたり、ほこりがたまつたりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

7.1.1 パソコン本体、キーボードの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

☞ 重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。
損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

☞ 重要

- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

7.1.2 液晶ディスプレイ／タッチパネル

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

☞ 重要

- ▶ 液晶ディスプレイ／タッチパネルの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイ／タッチパネルが破損するおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあつたときの対処方法について説明しています。

8.1 トラブル発生時の基本操作	114
8.2 よくあるトラブルと解決方法	118
8.3 それでも解決できないときは	137

8.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

8.1.1 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のパソコンの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずパソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか?また緩んだりしていませんか?
 - 電源コンセント自体に問題はありませんか?
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
 - OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか?
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
 - 使用する装置の電源はすべて入っていますか?
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- この他、「8.2.2 起動・終了時のトラブル」(→P.120) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

8.1.2 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
 - ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。
- 発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

8.1.3 トラブルシューティングで調べる

「8.2 よくあるトラブルと解決方法」(→P.118) は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

8.1.4 Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

8.1.5 インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html>) では、本パソコンで発生したトラブルの解決方法を提供しています。

また、富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) では、本パソコンに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。

注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

8.1.6 診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。

まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。

診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお知らせください。

診断時間はおよそ5~10分程度ですが、診断する内容やパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- ▶ BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「6.4.5 ご購入時の設定に戻す」(→P.110) をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 Ctrl+Alt+Deleteボタンを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

アプリケーションメニューが表示されます。

POINT

- ▶ パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

2 「診断プログラム」をタップして選択し、もう一度タップします。

「診断プログラムを実行しますか?」と表示されます。

診断時間は、メモリの搭載容量によっては長時間かかる場合があります。

メモリの1GBの診断時間は1~2分です。

3 キーボードボタンを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

4 次の操作を行います。

● トラブルが検出されなかった場合

続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。キーボードボタンを押してください。

起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順5に進んでください。

● トラブルが検出された場合

手順5以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、Ctrl+Alt+Deleteボタンを押してパソコンの電源をお切りください。

5 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をタップして閉じます。

6 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をタップします。

ハードウェア診断が始まります。

 **POINT**

- ▶ 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」など、ディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。
診断を取りやめる場合は、「スキップ」をタップしてください。

7 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

8 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をタップします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

9 「終了」をタップします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

10 「はい」をタップします。

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

- 11** 「トラブル解決ナビ」ウィンドウで「終了」をタップし、終了を確認する画面で「OK」をタップします。
パソコンが再起動します。

8.1.7 サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「8.3 それでも解決できないときは」(→P.137)をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

8.2 よくあるトラブルと解決方法

8.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」 (→P.120)
- 「ビープ音が鳴った」 (→P.120)
- 「メッセージが表示された」 (→P.121)
- 「画面に何も表示されない」 (→P.121)
- 「Windowsが起動しない」 (→P.122)
- 「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」 (→P.122)

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windowsにログオンできない」 (→P.123)
- 「ソフトウェアが動かなくなってしまった」 (→P.123)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」 (→P.123)
- 「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」 (→P.124)
- 「「Windowsエラー回復処理」が起動する」 (→P.124)

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」 (→P.125)

□ 無線LAN

- 「ネットワークに接続できない」 (→P.125)

□ デバイス

- 「機器が使用できない」 (→P.125)

□ スマートカード

- 「スマートカードが使えない」 (→P.126)

□ バッテリ

- 「バッテリが充電されない」 (→P.126)

□ ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」 (→P.127)
- 「表示が乱れる」 (→P.127)

□ サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」 (→P.128)
- 「マイクからうまく録音ができない」 (→P.128)

□ ポインティングデバイス

- 「ペンが使えない」 (→P.128)
- 「タッチが使えない」 (→P.129)
- 「タッチの誤入力が発生する」 (→P.129)

□ USB

- 「USBデバイスが使えない」 (→P.129)
- 「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」 (→ P.130)

□ プリンター

- 「プリンターを使用できない」 (→P.130)

□ その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」 (→P.130)

8.2.2 起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- ACアダプタは接続されていますか？

次のような場合には、ACアダプタを接続してください。

- ・ご購入後最初にお使いになる場合
- ・バッテリ運用時にバッテリが充電されていない場合
「2.8.3 バッテリの残量を確認する」（→P.50）
- ・長期間未使用状態の場合

- ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。

ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。2～3分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。

- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？



ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。

ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。

ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。

- ・メモリのテストエラー

メモリが正しく取り付けられていないか、本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。

メモリが正しく取り付けられているか確認してください。

メモリテストエラーの場合、画面には何も表示されません。

上記のことを確認してもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.131）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。
一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.131）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。
- 周辺機器の取り付けを確認してください。
拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかも確認してください。このとき、拡張カードやユーティリティソフトのマニュアルがある場合は、それらもあわせてご覧ください。
上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



画面に何も表示されない

- 外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。
 - ・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
必ずパソコン本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
 - ・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。
「2.4 マルチディスプレイ機能」（→P.32）をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。
 - ・解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？
そのまま15秒程度待っても液晶ディスプレイが表示されない場合は、本パソコンを強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。
 - ・「2.4 マルチディスプレイ機能」（→P.32）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。



Windowsが起動しない

- Windows起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。

Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？

- ・指紋センサー
- ・スマートカードスロット
- ・セキュリティチップ

認証デバイスを使用してWindowsにログオンしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。

認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。

アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にお問い合わせください。



Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。

1. Ctrl + Alt + Deleteボタンを押します。

本パソコンが強制終了します。

この操作で強制終了できないときは、電源スイッチを4秒以上スライドさせて電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れてください。

☞ 重要

- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。

8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。



Windowsにログオンできない

- セキュリティチップを使用してWindowsにログオンしている場合、BIOSセットアップの設定を次のようにすると、Windowsにログオンできなくなります。この場合、BIOSセットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。
 - ・「セキュリティ」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」の「セキュリティチップ」を「使用しない」に設定する。
- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにログオンできないときは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。



ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「Windowsタスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ▶ ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ ソフトウェアを強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。



頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
 - ・ウイルス対策ソフトウェアでフラッシュメモリディスクをスキャンする定期的にフラッシュメモリディスクをスキャンすることをお勧めします。
 - ・Cドライブの空き容量が充分か確認する
Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
 - ・ごみ箱を空にする
 - ・不要なファイルやソフトウェアを削除する
 - ・ディスクのクリーンアップを行う
 - ・フラッシュメモリディスクのエラーチェックを行う
- それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。



「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- 「富士通拡張機能ユーティリティ」で使用される「FUJ02E3 デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。

「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 Device Driver」が表示されているかを確認してください。

表示されていない場合は、「FUJ02E3デバイスドライバー」をインストールしてください。

インストール方法は、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納されている「FUJ02E3.txt」をご覧ください。

1. 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。
2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
3. 「種別」に「ユーティリティ」を設定します。
4. 「一覧」の「ソフトウェア」で「FUJ02E3 Device Driver」を選択します。
5. 「内容」の「driver」フォルダ→「ja」フォルダ→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。



「Windowsエラー回復処理」が起動する

- パソコンの電源を切るときに、「シャットダウン」をタップして正しく終了せず、電源スイッチを4秒以上スライドさせるなどして電源を切ると、次回の起動にWindowsエラー回復処理が起動する場合があります。

Windowsエラー回復処理において、各ボタンは以下のとおりに動作します。

ボタン	動作
Ctrl + Alt + Delete ボタン	【↑】キーを押したときの動作
ローテーションボタン	【↓】キーを押したときの動作
キーボードボタン	【Enter】キーを押したときの動作

Windowsエラー回復処理が表示された場合は、以下の操作を実行します。

- ・ Windowsを通常起動する」を選択して、キーボードボタンを押します。<Windowsが起動して、通常通りに操作できれば問題はありません。
- ・ パソコンを起動すると再度「Windowsエラー回復処理」が表示される場合は、「Windowsを通常起動する」以外の項目を選択して、表示されるメッセージやヘルプに従って問題を解決してください。

8.2.4 ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS



BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れる、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。
ハードディスクパスワードを忘れる、フラッシュメモリディスクが使えなくなったり、
フラッシュメモリディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。
いずれの場合も修理が必要となります。
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」(→P.107)をご覧ください。

■ 無線LAN



ネットワークに接続できない

- ワイヤレススイッチ搭載機種で、ワイヤレススイッチはONになっていますか？
 - 省電力モードになっていませんか？
省電力モードになると、消費電力を抑えるために、デバイスの動作を制限する場合があります。詳しくは、「2.7.6 省電力モード」(→P.46)をご覧ください。
- ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ デバイス



機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？
次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
システム管理者に確認してください。
 - ・USB
 - ・SDメモリーカード
 - ・メモリースティック

■スマートカード



スマートカードが使えない

- スマートカードが正しくセットされていますか？
- 「Portshutter」で、次のポート設定は、有効になっていますか？（→P.125）
 - ・スマートカードスロットの場合：PCカード
 - ・スマートカードリーダー／ライターの場合：USB

■バッテリ



バッテリが充電されない

- ACアダプタは接続されていますか？
ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- バッテリが熱くなっていますか？
バッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。
周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- パソコン本体が冷えていませんか？
バッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。
バッテリの温度が5°C以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
本体が10°C以下になるとバッテリの充電に時間がかかることがあります。
- バッテリの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）ではありませんか？
バッテリの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）の場合は、バッテリを保護するため、充電が始まいません。
バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

■ ディスプレイ



画面に何も表示されない

- 「8.2.2 起動・終了時のトラブル」(→P.120) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？
本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間マウスやキーボードからの入力がないと省電力状態に移行します。
詳しくは「2.7 省電力機能」(→P.42) をご覧ください。



表示が乱れる

- 解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
「2.3.4 解像度を変更する」(→P.31) をご覧になり、正しく設定してください。
外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ソフトウェアを最小化します。
 2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください。
- ドライバーが正しくインストールされていますか？
「5.2 インストール」(→P.90) をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。

■ サウンド



スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・スピーカーの出力はONになっていますか？
スピーカーの出力を確認してください。
 - ・ヘッドホン・ラインアウト兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- ミュートや音量などを確認してください。
詳しくは、「2.6 サウンド」（→P.39）をご覧ください。
- 省電力モードになってしまいませんか？
省電力モードになると、消費電力を抑えるために、ミュートに設定されている場合があります。詳しくは、「2.7.6 省電力モード」（→P.46）をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？
「2.6 サウンド」（→P.39）をご覧になり、オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。
- サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「5.2 インストール」（→P.90）をご覧になり、再インストールしてください。



マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「2.6 サウンド」（→P.39）をご覧ください。

■ ポイントティングデバイス



ペンが使えない

対象 ペン入力対応機種

- ペンの先が画面に充分についていない場合、正しく操作が認識されないことがあります。
添付のペンを用いて、画面に充分につけて操作をしてください。
- 電池の寿命ではありませんか？
「2.1.7 ペンの電池を交換する」（→P.26）をご覧になり、ペンの電池を交換してください。



タッチが使えない

対象 ペン入力対応機種

- 大きな電力を必要とする機器の近くなど電源ノイズの多い場所でお使いになる場合や、タコ足配線をしている場合など、お使いになる環境によっては操作が正しく認識されないことがあります。
「2.1.6 ペンの機能を設定する」(→P.25)をご覧になり、「N-trig DuoSenseTM Digitizerの設定」の設定を行ってください。



タッチの誤入力が発生する

- 次のような状況では、タッチパネルがタッチ入力を誤検出する場合があります。
 - ・タッチパネルを使い始める前に、タッチの調整を行っていない。
 - ・ご使用環境に合わせたタッチの調整を行っていない。
 - ・ご使用場所の移動などによる環境の変化（温度、湿度、使用する電源や電波環境など）が生じた。
- このような場合には、タッチの調整を行ってください。
- タッチパネルの調整は、「2.1.6 ペンの機能を設定する」(→P.25)をご覧になり、タッチの調整を実行してください。

■ USB



USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。
パソコンを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？(→P.125)



USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか?インストールされていますか?
必要なドライバーをインストールしてください。
- 外部から電源が供給されないUSBデバイスの場合、消費電力に問題はありませんか?
次の手順でUSBコネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャー」
 2. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルタップし、「USB Root Hub」または「USBルートハブ」をダブルタップします。
「USB Root Hubのプロパティ」ウィンドウまたは「USBルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「電力」タブをタップし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか? (→P.125)

■ プリンター



プリンターを使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか? (→P.125)
プリンターの使用方法については、プリンターのマニュアルをご覧ください。

■ その他



「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」「キーン」というパソコン本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。
故障ではありませんので、そのままお使いください。

8.2.5 エラーメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。エラーメッセージ一覧には、お使いのパソコンに搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
記号	
<F1>キーを押すと継続、<F2>キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
C	
CPU ファンエラー。システムの電源が切れます。	CPU ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
I	
Invalid system disk Replace the disk, and then press any key	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
N	
Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NVRAM データが正しくありません。	NVRAMデータのテストでエラーが発見されたことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
O	
Operating system not found	OSが見つからなかったことを示しています。 BIOSセットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブにOSが正しくインストールされているかを確認してください。
P	
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークポートに失敗しました。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ	解説
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
R	
Remove disks or other media. Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
か	
拡張メモリエラー。アドレス行 : nn	メモリのテスト中に、アドレスnnでエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品であるかを確認してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
キーボードエラーです。	キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
キーボード接続エラーです。	キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。 テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
このスマートカードは使用できません。	読み取りに必要な情報がないときに表示されます。この場合、『SMARTACCESS ファーストステップガイド(認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧になり、正常なカードをお使いになるか、ログオン情報を登録してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
このスマートカードはロックされています。	スマートカードがすでにロックされているときや、読み取りに必要な情報がロックされているとき、アクセス権がないときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。
このスマートカードはロックされました。	スマートカードがロックされたときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。
さ	
サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。	温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ	解説
システムCMOSのチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。	CMOS RAMのテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。 【F2】キーを押してBIOSセットアップを起動し、標準設定値を読み込んだ後、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAMに設定内容が保存されていないことが考えられます。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムタイマーのエラーです。	システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムは使用できません。	スマートカードに登録されているBIOSロック用パスワードが、BIOSセットアップで設定した管理者用パスワードおよびユーザー用パスワードのどちらとも一致しない場合に表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。
スマートカードが挿入されていません。	スマートカードがセットされていないときに表示されます。
スマートカードに接続できませんでした。	スマートカードスロットやスマートカードに異常がある場合に表示されます。この場合、スマートカードが正常にセットされているか、カードに損傷がないか確認してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
セキュリティチップが見つかりません。	セキュリティチップが見つからなかったことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
セキュリティボタン異常	電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。	前回の起動時に正しく起動されなかつたため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。 起動途中に電源を切ってしまった、またはBIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかつた、または3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOSセットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
前回の起動中にCPUファンエラーが発生しました。	前回の起動時にCPUファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。	前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動中にファンエラーが発生しました。	前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
た	
ディスクのエラーです。: ハードディスク n	フラッシュメモリディスクドライブの設定にエラーがあることを示しています。 BIOSセットアップを起動し、「システム」メニューの「ドライブn」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
な	
入力されたPINは間違っています。 あとnn回PINを間違えるとスマートカードがロックされます。	PINの入力を間違えたときに、PINを入力できる残り回数を表示します。
入力されたPINは間違っています。 再度PINを間違えるとスマートカードがロックされます。	PINを入力できる残り回数が1回のときに表示されます。

メッセージ	解説
は	
日付と時刻の設定を確認してください。	日付と時刻の設定値が正しくありません。 設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
ファンエラー。システムの電源が切れます。	冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「イベントログ設定」の「イベントログの表示」から確認できます。BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
A	
ACアダプタ無しで起動されました	ACアダプタ無しで起動されました。
C	
CPU ファンエラーが発生した	CPU ファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
P	
POSTエラー：BIOSセットアップ不正による起動エラー	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定しな直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：CMOSチェックサム不正	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定しな直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した(ヘッダー情報)	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：PCIデバイスで割り込み番号競合	PCカードの割り込み番号が重複しています。 PCカードの設定を確認してください。
POSTエラー：nnnnnnnn nnnnnnnn	nには数字が表示されます。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：キーボードエラー	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーが押されたままになつてないか、またはキーボードが正しく接続されているか、確認してください。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
キーボード接続エラーです	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーボードが正しく接続されているか、確認してください。
さ	
サーマルセンサエラーが発生した	サーマルセンサエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムが起動された	イベントログ設定の「システム起動」を「保存する」に設定した場合に、起動ごとに記録されます。
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
システムファンエラーが発生した	システムファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
診断プログラムが異常を検出（詳細コード=nnnnnnnn）	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。

メッセージ	解説
は	
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
ファンエラーが発生した	ファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。

8.3 それでも解決できないときは

8.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

● ノートン アンチウイルス

株式会社シマンテック

シマンテック・テクニカル・サポートセンター

- ・本センターは技術的なお問い合わせ用の窓口です。
- ・ご利用期間は更新期間（90日間）となります。

（更新サービス延長のお申し込みをいただくと、引き続き本サポートをご利用いただけます。）

詳しくは、製品別サポートページ (<http://symss.jp>) を参照のうえ、お問い合わせください。

更新サービス延長のお申し込みは、サポートセンターとは異なるお問い合わせ先になります。

シマンテック・ストア

URL : <http://www.symantecstore.jp/users.asp>

● i-フィルター

デジタルアーツ株式会社

デジタルアーツ株式会社 サポートセンター

電話：月～金／03-3580-5678、土・日・祝祭日／0570-00-1334

受付時間：10:00～18:00（年末年始、指定休業日を除く）

URL : <http://www.daj.jp/faq/>

お問い合わせフォーム：<http://www.daj.jp/ask/>

90日間の試用期間中、サポートいたします。

● Adobe Reader

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

● Windows Live メール／Windows Live Messenger

日本マイクロソフト株式会社「Windows Live Solution Center へようこそ」のWindows Live メールのヘルプページ（<http://www.windowslivehelp.com/>ページで「Mail」をタップ）からお問い合わせください。

- ・ Mail ポータルの 解決策、フォーラム、および語句検索から疑問点の解決方法を検索します。
- ・ 疑問点の解決方法を検索し、解決しないときは各ページの「質問する」リンクからお問い合わせください。

● Silverlight

日本マイクロソフト株式会社 Silverlight サポートページ（URL：<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=199242>）からお問い合わせください。

- ・ ページ右側の「お問い合わせ」の下にある「マイクロソフトへ問い合わせる」をタップし、画面の指示に従って、お問い合わせください。

● Quality Gaaiho PDF Suite

クオリティソフト株式会社

e-mail : sales@quality.co.jp

電話番号：0120-359-217

サポート時間：9:00-17:00

● CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU

富士通株式会社

BI OnDemand サポートデスク

ERP事業本部 BI ソリューション部

ユーザーサポートサイト

URL：<http://www.biondemand.jp/support/customer/pcbundle.html>

9

第9章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

9.1 本体仕様	140
9.2 CPU	143
9.3 ディスプレイ	144

9.1 本体仕様

9.1.1 Q550/C

製品名称		STYLISTIC Q550/C ペン&指入力対応 HIGH-SPEED対応無線WAN モデル	STYLISTIC Q550/C ペン&指入力対応モデル	STYLISTIC Q550/C 指入力対応モデル
CPU ^{注1}	名称	インテル® Atom™ Z670 プロセッサー		
	動作周波数	1.50GHz		
	コア数／スレッド数	1 / 2		
	キャッシュメモリ	2次 : 512KB		
チップセット		インテル® SM35 Expressチップセット		
システムバスクロック		400MT/s cDMI ^{注2}		
メインメモリ		標準2GB (オンボード) (PC2-6400 DDR2 SDRAM) 最大2GB		
メモリスロット		× 0 (空きメモリスロット×0)		
表示機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® Graphics Media Accelerator 600 (CPUに内蔵)		
	ビデオメモリ	最大 759MB (メインメモリと共に用) ^{注3}		
	液晶ディスプレイ ^{注4}	LEDバックライト付10.1型ワイドTFTカラー 1280×800 ドット		
	解像度／発色数 ^{注5}	液晶ディスプレイ表示 : 1280×800 ドット / 1677万色 外部ディスプレイ表示 : 最大1280×720 ドット / 最大1677万色		
	DirectX	9.0		
	OpenGL	2.0		
フラッシュメモリディスクドライブ ^{注6}		30GB (シリアルATA) ^{注7}		
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵 + High Definition Audio コーデック		
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数 : 最大192kHz、24ビットステレオ (再生時) ^{注8} サンプリング周波数 : 最大96kHz、16ビットステレオ (録音時) ^{注8} 同時録音再生機能		
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート		
	スピーカー	モノラルスピーカー		
	マイク	デュアルマイク		
Webカメラ		裏面 : 有効画素数 約130万画素 表面 : 有効画素数 約30万画素		
キーボード		なし ^{注9}		
ポインティングデバイス		タッチパネル (静電容量方式 / 電磁誘導方式)	タッチパネル (静電容量方式)	
タブレットボタン		× 3 (プログラマブル×1)		
通信機能	無線LAN	規格 IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、 (5GHz帯チャンネル : W52/W53/W56) (Wi-Fi® 準拠) ^{注10}		
	無線WAN ^{注11}	FOMA HIGH-SPEED 対応 (受信時最大 7.2Mbps、 送信時最大 5.7Mbps) ^{注12}	なし	
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー ^{注13}	Bluetooth v3.0		

製品名称		STYLISTIC Q550/C ペン&指入力対応 HIGH-SPEED対応無線WAN モデル	STYLISTIC Q550/C ペン&指入力対応モデル	STYLISTIC Q550/C 指入力対応モデル
セキユリティ機能	指紋センサー		スライド方式	
	スマートカード		×1（専用スロット） ^{注14}	
	セキュリティチップ		TCG Ver 1.2準拠 ^{注15}	
	盗難防止用ロック取り付け穴		なし	
インターフェース	SDメモリーカード ^{注16}		×1スロット	
	外部ディスプレイ HDMI ^{注17}		HDMI出力×1	
	USB ^{注18}		USB2.0準拠×1（左側面×1）	
	オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用 ^{注19}	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 ヘッドホン出力設定時：出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω ラインアウト設定時：出力1V以上、負荷インピーダンス10kΩ以上	
	状態表示		LED	
	クレードル		×1（専用コネクタ）	
電源供給方式	クレードル ^{注20}	USB ^{注18}	USB2.0準拠×4（左側面×2、右側面×2）	
ACアダプタ ^{注21}			入力AC100V～240V、出力DC19V（2.1A）	
バッテリ			内蔵バッテリパック（標準）：リチウムイオン19Wh 内蔵バッテリユニット（大容量）（別売）：リチウムイオン38Wh	
バッテリ駆動時間（JEITA測定法1.0） ^{注22}			約4.5時間（標準）／ 約9.1時間（大容量）	約5.2時間（標準）／ 約10.0時間（大容量）
バッテリ充電時間 ^{注23}			約3.8時間（標準）／約8.0時間（大容量）	
消費電力 ^{注24} （最大時）			約10W（約17W）	
外形寸法（突起部含まず）			W275×D192×H16.2mm	
質量			約760g ^{注25}	約730g ^{注25}
電波障害対策			VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率			富士通製品情報ページ（ http://www.fmworld.net/biz/ ）にある、 製品情報の仕様をご覧ください。	
温湿度条件			温度5～35℃／湿度20～85%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)	
プレインストールOS ^{注26注27}			Windows® 7 Professional（32ビット版）正規版 ^{注28} 、 Windows® 7 Home Premium（32ビット版）正規版 ^{注28}	
サポートOS ^{注26注29}			Windows® 7 Enterprise（32ビット版）正規版 ^{注28} 、 Windows® 7 Professional（32ビット版）正規版 ^{注28} 、 Windows® 7 Home Premium（32ビット版）正規版 ^{注28}	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「9.2 CPU」（→P.143）をご覧ください。

注2：cDMIはCMOS Direct Media Interfaceの略です。

注3：Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。

注4：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られていますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です）。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。また、スクリーンセーバーの設定については、Windowsのヘルプをご覧ください。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少なほん点が目立つことがあります。

- 注5 : ・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
- 注6 : 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注7 : カスタムメイドの選択によっては、フラッシュメモリディスク62GB（シリアルATA）の場合もあります。
- 注8 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注9 : カスタムメイドの選択によって、ワイヤレス・キーボードが添付されています。
(Bluetooth、キーピッチ約17mm、キーストローク約1.7mm、87キー、JIS配列準拠)
- 注10 : Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注11 : 無線WAN（FOMA HIGH-SPEED）をご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS IIユニバーサルコネクト」の契約、またはNTTドコモとの回線契約およびFOMA HIGH-SPEEDに対応したプロバイダーとの契約が必要です。
- 注12 : ・ベストエフォート方式による提供となります。受信時最大7.2Mbpsおよび送信時最大5.7Mbpsの通信速度とは、技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。
・送信時最大5.7Mbpsに対応したエリアについては、NTTドコモのホームページ (<http://www.nttdocomo.co.jp/support/area/index.html>) をご覧ください。
- 注13 : すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注14 : BIOSパスワードをスマートカード認証に置き換えることはできません。
- 注15 : ご購入時のセキュリティチップの状態は、無効になっています。
- 注16 : ・すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
・著作権保護機能には対応していません。
・2GBを超えるSDカードには対応していません。2GBを超える32GBまでの場合はSDHCカードをお使いください。
・miniSDカード、microSDカード／microSDHCカードをお使いの場合は、アダプターが必要になります。
・SDXCメモリーカード、SDIOカードには対応していません。
- 注17 : ・HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。
- 注18 : ・すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
・外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 注19 : ご購入時はヘッドホン出力に設定されています。ラインアウトに設定するには「2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」(→P.41)をご覧ください。
- 注20 : カスタムメイドの選択によって添付されています。
- 注21 : 矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用DC/AC電源など）に接続されると故障があります。
- 注22 : 社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver1.0）」(<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。
なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の駆動時間は使用条件により異なります。
- 注23 : ・電源オフ時および省電力状態時、装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。
- 注24 : ・当社測定基準によります（無線WAN非搭載モデルで、メモリ2GB、暗号化機能付フラッシュメモリディスク30GB、無線LAN OFF、Bluetooth OFF、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力は、約1W以下（満充電時）です。
・電源オフ時の消費電力を0にするには、ACケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注25 : カスタムメイドで選択した場合、別売オプションを取り付けた場合の質量の増減は、次のとおりです。
大容量バッテリユニット（別売） 約110g
- 注26 : 日本語版。
- 注27 : いずれかのOSがブレインストールされています。
- 注28 : Windows® 7 Service Pack 1。
- 注29 : 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。

9.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます(→P.101)。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー (EIST)

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます(→P.101)。

POINT

- ▶ この機能により本パソコンの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」(→P.45)をご覧ください。

■ エグゼキュー・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュー・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止(DEP)機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。

データ実行防止(DEP)機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[ソフトウェア名称]は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をタップし、表示される対処方法に従ってください。

9.3 ディスプレイ

9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

パソコン本体の液晶ディスプレイだけを使用している場合、シングル表示の場合、拡張デスクトップ表示の場合に、本パソコンが対応可能な解像度です。

外部ディスプレイの場合、お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。発色数は、「16ビット」（約6万5千色）または「32ビット」（約1677万色）が選択できます。

☞ 重要

- ▶ 1280×800以外の解像度では、「FujitsuHL」（→P.64）を使用することはできません。

■ 液晶ディスプレイ

解像度	対応
800×600	○
1024×768	○
1280×800	○

■ デジタルディスプレイ（HDMI）

解像度	対応
1280×720 ^注	○

注：お使いの外部ディスプレイのパネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。

9.3.2 クローン表示の解像度

クローン表示の場合に本パソコンが出力可能な解像度です。

お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。

発色数は、「16ビット」(約6万5千色) または「32ビット」(約1677万色) が選択できます。

☞ 重要

- ▶ 1280×800以外の解像度では、「FujitsuHL」(→P.64) を使用することはできません。

解像度	対応	水平走査周波数 (kHz)	リフレッシュレート (Hz)
800×600	○	37.9	60
		48.1	72
		46.9	75
		53.7	85
1024×768	○	48.4	60
		56.5	70
		60.0	75
		68.7	85
1280×800 ^注	○	49.7	60

注：お使いの外部ディスプレイのパネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。

■ 液晶ディスプレイ+デジタルディスプレイ (HDMI)

解像度	対応
1280×720	○

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- フラッシュメモリディスクのデータを消去していますか？
パソコン本体に内蔵されているフラッシュメモリディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。パソコンを廃棄するときは、フラッシュメモリディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。フラッシュメモリディスク内のデータ消去については、「4.4 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.80）をご覧ください。
- 本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。
 - ・法人、企業のお客様へ
本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>）をご覧ください。
 - ・個人のお客様へ
本製品を廃棄する場合は、弊社ホームページ「富士通パソコンリサイクル」（<http://azby.fmworld.net/recycle/>）をご覧ください。

■ 使用済みバッテリについて

- 使用済みバッテリは、次のように取り扱いください。
 - ・リチウムイオン電池のバッテリパック、バッテリユニットは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
 - ・使用済みバッテリは、ショート防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
 - ・バッテリを火中に投じると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。
バッテリの仕様については、「仕様一覧」－「本体仕様」またはバッテリのマニュアルをご覧ください。
- 使用済みバッテリを廃棄する場合は、次のように行ってください。
 - ・法人・企業のお客様へ
弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>）をご覧ください。

・個人のお客様へ

使用済みバッテリは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクルBOXに入れてください。

詳しくは、一般社団法人JBRCのホームページ (<http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html>) をご覧ください。

弊社は一般社団法人JBRCに加盟し、リサイクルを実施しています。



このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

索引

A

Adobe Reader 87, 137

B

BIOS

- イベントログ 110, 135
- エラーメッセージ 131
- パスワード 105

BIOSセットアップ 95

- 起動する 96
- 終了する 98

Bluetoothワイヤレステクノロジー 55

C

CPU 143

CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU138

D

DataShare 87

DEP 143

E

Easy Backup 83, 87

EIST 143

F

FOMAカード 69

Fujitsu Display Manager 35, 87

FujitsuHL 64, 87

G

Googleツールバー 87

H

HIGH-SPEED対応無線WAN 55

I

i-フィルター 86, 92, 137

M

Microsoft Office 89, 92

Mobile Partner 87

O

OnScreen Touchpad 87

P

PC乗換ガイド 86

Plugfree NETWORK 55, 87

Portshutter 78, 86

Q

Quality Gaaiho PDF Suite 138

S

SDメモリーカード 61

SMARTACCESS/Basic 86, 92

Systemwalker Desktop Patrol Lite 88

U

UpdateAdvisor 76, 86

USBコネクタ 72

W

Windows Live Messenger 88

Windows Live メール 88, 138

Windows Update 76

あ行

アンインストール 93

暗号化機能付

— フラッシュメモリディスク 78

— イベントログ 110, 135

インストール

— i-フィルター 92

— Microsoft Office 92

— SMARTACCESS/Basic 92

— ノートン アンチウイルス 92

インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー	143
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	79, 143
エラーメッセージ	121, 131
オーディオ端子	73
－切り替え	41
お問い合わせ先	137
音量調節	
－機器／項目	40
－全体	39
－ソフトウェア	39
音量ミキサー	39

か行

解像度	31, 144, 145
拡大表示設定	31
拡張デスクトップ表示	32, 33
拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー(EIST)	143
キーボード	
－お手入れ	112
起動デバイス	108
起動メニュー	99
キャリブレーション	21
－ペン	21
－指	22
休止状態	42
クレードル	67
クローン表示	32, 33
コンピューターウイルス	75

さ行

サポートナビ	86
指紋センサー	77
シャットダウン	44
省電力状態	42, 43
－休止状態	42
－省電力モード	46
－スリープ状態	42
省電力モード	42, 46
省電力ユーティリティ	46, 88
シングル表示	32, 34
診断プログラム	115
スマートカード	77
スリープ状態	42
セキュリティチップ	78, 109

た行

タッチパネル	19
－キャリブレーション	21
タッチ文字入力	88
タブレットボタン	63
ディスプレイ	30
－明るさの変更	30
－お手入れ	112
－解像度	144, 145
－解像度の変更	31
－拡大表示設定の変更	31
－拡張デスクトップ表示	33
－画面表示の向きの変更	36
－クローン表示	33
－シングル表示	34
－マルチディスプレイ機能	32
ディスプレイコネクタ	71
データ実行防止(DEP)機能	143
電源プラン	45
電源を切る	44
ドコモコネクションマネージャ	88
ドライバーズディスク検索ツール	90

な行

ノートン	
－アンチウイルス	75, 86, 92, 137

は行

ハードディスクパスワード	105
廃棄	80, 146
パスワード	
－BIOS	105
バックアップ	83
バッテリ	48
－交換	51
－残量	50
－充電	49
－充電モード	53
－状態	54
バッテリーユーティリティ	53, 54, 88
バッテリ充電ランプ	49
ビープ音	120
富士通拡張機能ユーティリティ	88
プロファイル	56
ペン	
－ペン機能の設定	25
－ペン先の交換	27

ま行

マルチディスプレイ機能	32
－拡張デスクトップ表示	32
－クローン表示	32
－シングル表示	32
無線LAN	55
無線WAN	55
メモリーカード	60

や行

ゆったり設定mini	88
------------	----

ら行

リサイクル	146
レジューム	43
ローテーションボタン	36

わ行

ワイヤレススイッチ	56
-----------	----

STYLISTIC
Q550/C

製品ガイド
B6FJ-6661-01-04

発行日 2011年5月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。